

令和2年度第1回木津川市環境審議会

会議次第

日 時：令和2年8月18日（火）午前10時～
場 所：木津川市役所5階 全員協議会室

1. 開会

2. ミニセミナー（SDGsと地球温暖化）

3. 議事

（1）今回の審議事項等について

（2）市の現状と課題について

（3）計画のアウトラインについて

（4）団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートについて

（5）その他について

4. 閉会

会議資料

資料 木津川市環境審議会委員名簿

資料1 第2次木津川市環境基本計画アウトライン

資料2-1～11 市の概要・現況等の資料データ

資料3 団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートにおける質問票（案）

※資料3は当日配布いたします。

○木津川市環境審議会 委員名簿

任期：令和元年11月20日～令和3年11月19日

区分	氏名 [敬称略・50音順]	肩書等	所属団体	役職
条例1号委員 環境に関し 知識経験を 有する者又 は団体の代 表	おおにし ともよし 大西 知芳	京都やましろ環境教育ネットワーク 事務局長	京都やましろ環境教育ネットワーク	
	きた むねお 北 宗郎	木津川を美しくする会 会長・木津川市支部支部長	木津川を美しくする会木津川市支部	
	きはら ひろたか 木原 浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター 副センター長	京都府地球温暖化防止活動推進センター	
	たしばな しほ 立花 志保	木津川市こどもエコクラブサポーターの会 代表	木津川市こどもエコクラブサポーターの会	
	はしもと せいじ 橋本 征二	立命館大学 理工学部教授		会長
	わたなべ もとのぶ 渡部 基信	医療法人 社団 医聖会 学研都市病院 小児科部長 同志社大学 赤ちゃん学研究センター 嘱託研究員・環境省エコチル調査担当	同志社大学 赤ちゃん学研究センター	
条例2号委員 事業を當む 法人の代表	うちむら みの 内村 美乃	株式会社平和堂 アル・プラザ木津 総務次長	株式会社平和堂 アル・プラザ木津	
	えみ かずあき 江見 和明	積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 研究開発推進・管理グループ 部長	積水ハウス株式会社 総合住宅研究所	
条例3号委員 農業委員会 の代表	おさき てるお 尾崎 輝雄	木津川市農業委員会 農業委員	木津川市農業委員会	副会長
オブザーバー	えんどう よりこ 遠藤 順子	木津川市教育委員会 理事	木津川市教育委員会	
	もりおか みつきよ 森岡 三清	京都府山城南保健所 技術次長・環境衛生課長	京都府山城南保健所環境衛生課	

第2次木津川市環境基本計画アウトルайн（案）

第1章 基本的事項

- 1 計画の背景
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間
- 4 計画の範囲

第2章 木津川市が目指す計画の基本となる考え方

1 木津川市の環境の現状と課題

(1) 木津川市の概要

- ①位置・面積
- ②歴史・沿革
- ③土地利用計画
- ④人口
- ⑤産業

(2) 木津川市の環境の特性と課題

- ①地形・地質
- ②気象
- ③河川の水質
- ④土地利用
- ⑤電気・都市ガスの使用量
- ⑥再生可能エネルギー（発電設備）等の導入状況
- ⑦廃棄物の排出量
- ⑧公害等の苦情件数
- ⑨アダプトプログラムなどの市民活動・出前講座 など

2 木津川市が目指すまちの将来像と環境分野における重要視点

- (1) 持続可能な開発目標（S D G s）の考え方の活用
- (2) 木津川市が目指すまちの将来像
- (3) 木津川市が大切にする環境分野における重要視点

3 木津川市の環境保全と創造に関する基本理念と環境未来像

（裏面に続く）

第3章 環境未来像を実現するための重点施策

1 環境未来像を実現するための柱と方針

2 重点施策

- (1) 地球環境に配慮した環境都市（地球環境・脱炭素化）
- (2) 緑・水・歴史を育む環境都市（自然・文化環境）
- (3) 環境負荷が少なく資源が循環する環境都市（循環型社会）
- (4) 健康で安全な生活ができる環境都市（生活環境）
- (5) 環境人材を育む環境都市（パートナーシップ・環境教育）

3 重点施策の推進と S D G s の視点

第4章 計画の推進方策

- 1 計画の進行管理の基本的な考え方
- 2 計画の推進体制
- 3 計画の進捗状況の評価・点検
- 4 計画の見直し

資料2-1

木津川市の位置



資料：木津川市統計書

地目別土地面積の推移

	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1
田	1045.5	1039.7	1024.8	1018.6	1015.7	1013.5	1009.3
畠	691.5	685.7	675.2	668.0	667.5	664.7	663.3
宅地	803.9	813.3	840.1	870.8	871.7	872.9	873.3
池沼	8.0	7.8	6.6	4.4	4.4	4.4	4.4
山林	1740.0	1726.1	1652.3	1647.4	1636.1	1634.0	1634.5
原野	96.5	95.1	89.8	88.8	89.0	88.4	88.8
雑種地	396.9	394.4	379.0	339.3	343.1	346.5	347.7
評価総面積	4782.3	4762.1	4667.8	4637.3	4627.5	4624.4	4621.3

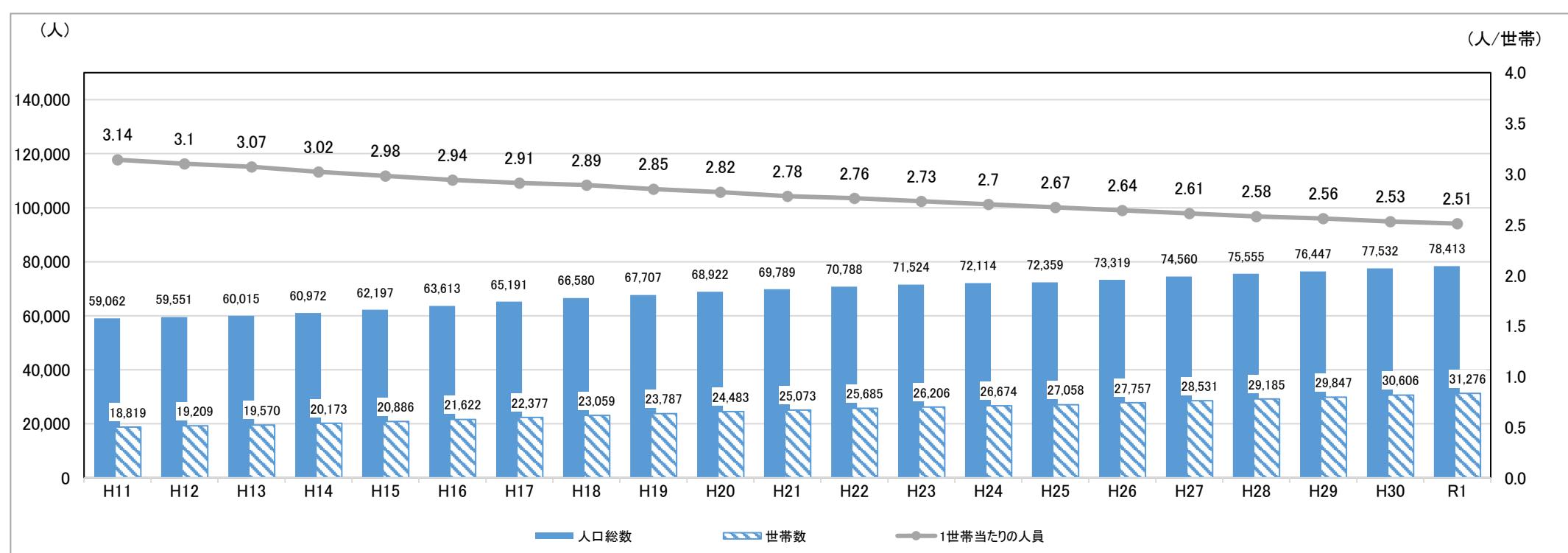
資料：木津川市統計書

森林面積の推移

	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
総面積	85.12	85.13	85.13	85.13	85.13	85.13
森林面積	31.72	31.41	31.41	31.37	31.37	31.33
森林率	37.3	36.9	36.9	36.8	36.8	36.8

資料：京都府統計書

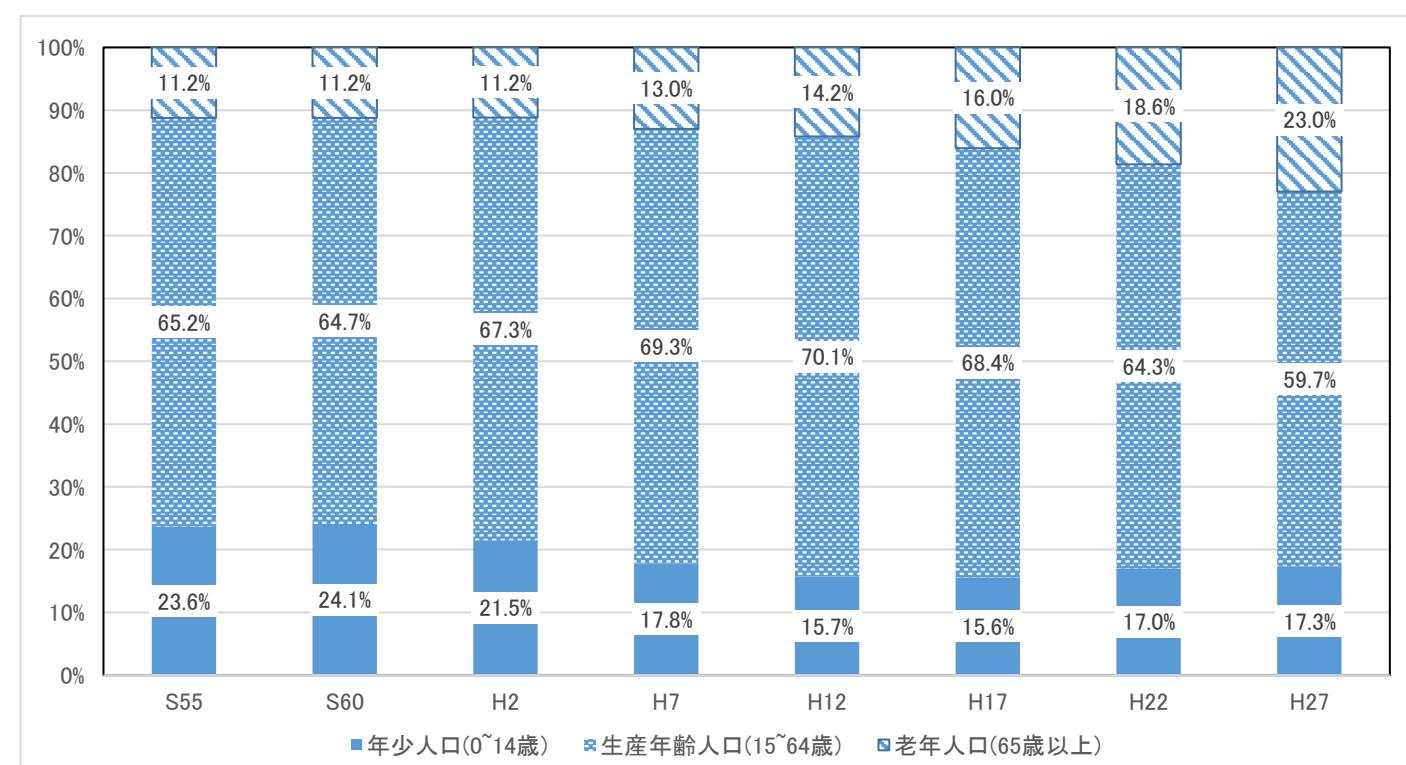
人口・世帯の推移



※数値は、外国人登録人口を含む。平成10年度から17年度までの木津川市の数値は、合併前の3町の合計値。

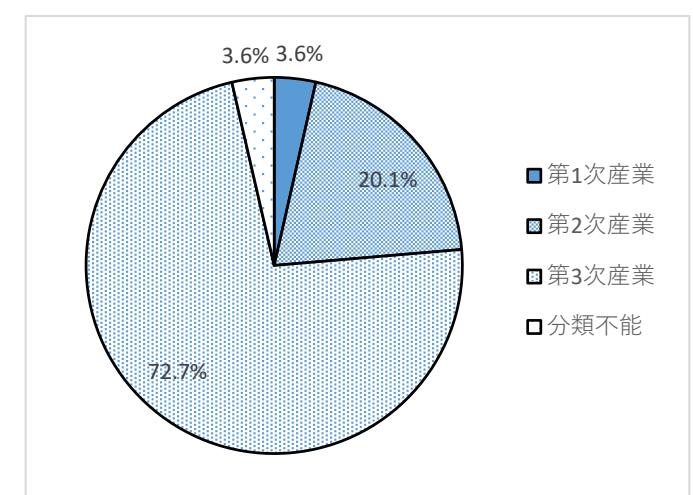
資料：木津川市統計書

年齢別人口の推移



資料：木津川市統計書

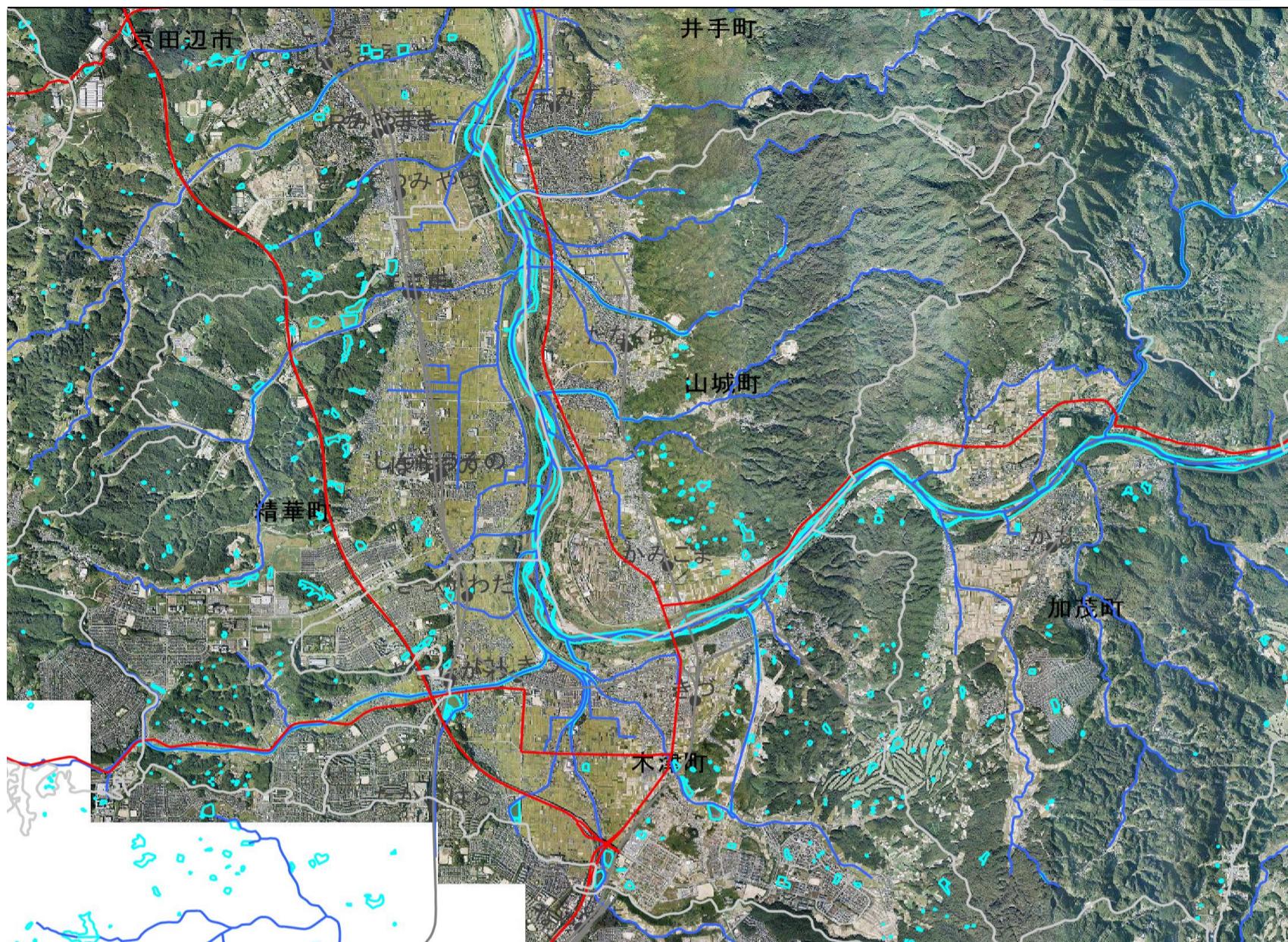
産業別就業者率



資料：平成27年国勢調査

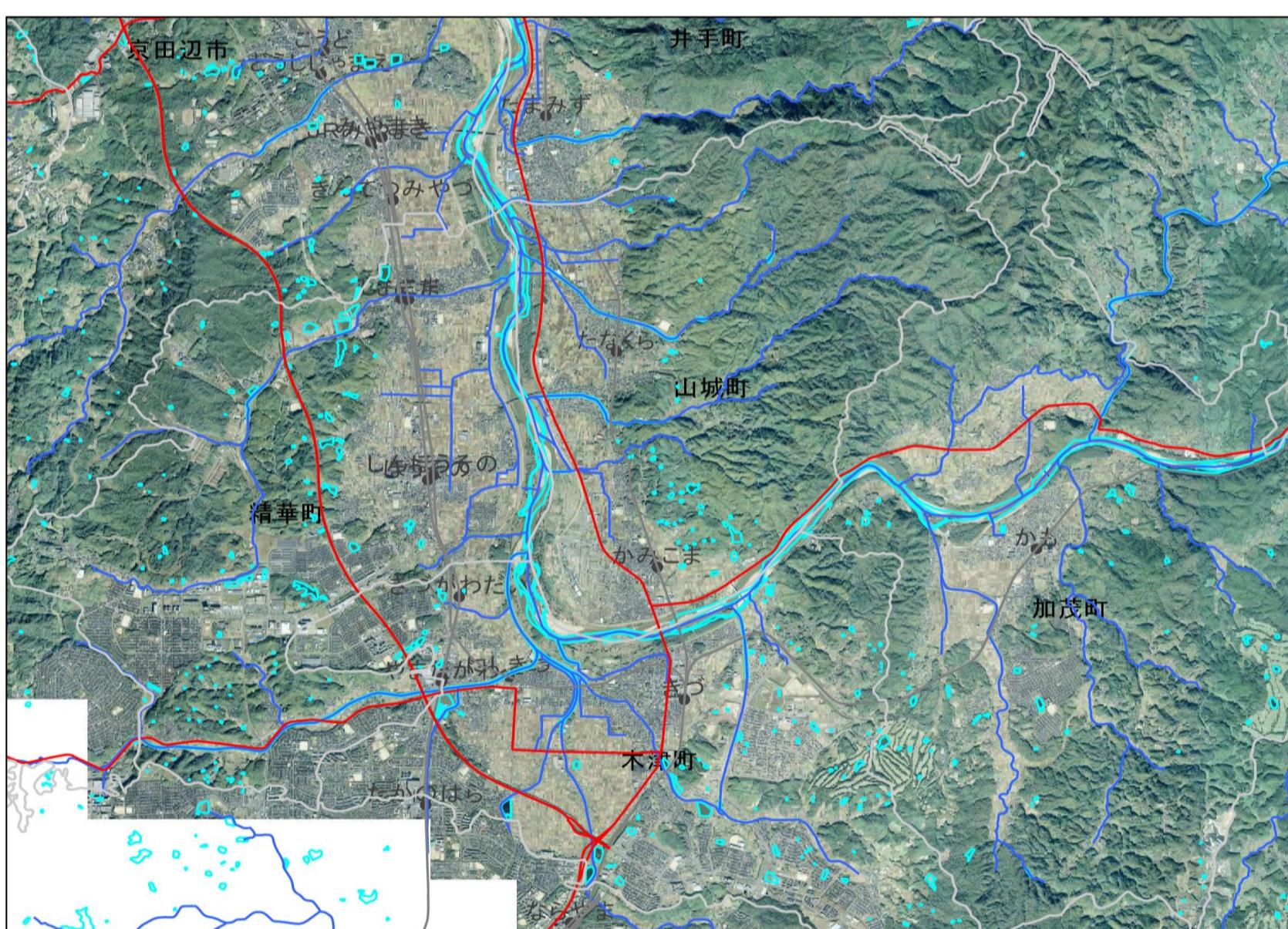
資料2-2

平成20年度航空写真



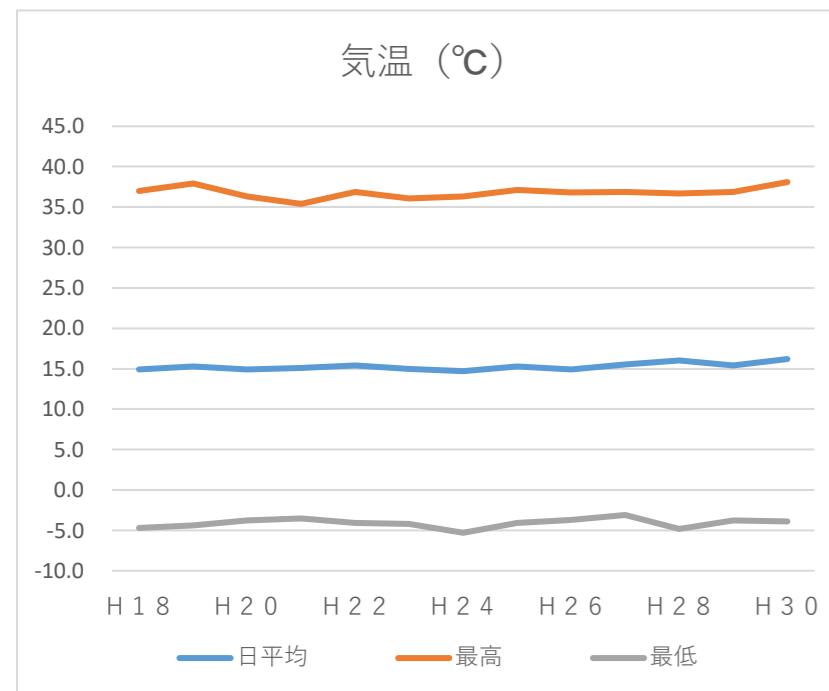
資料：統合型GISシステム

平成29年度航空写真

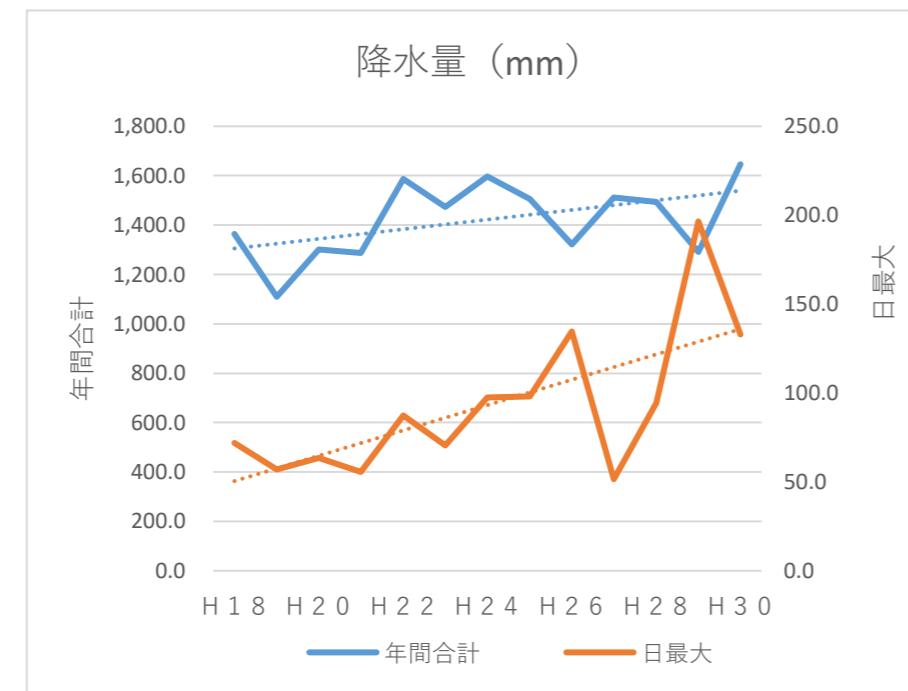


資料：統合型GISシステム

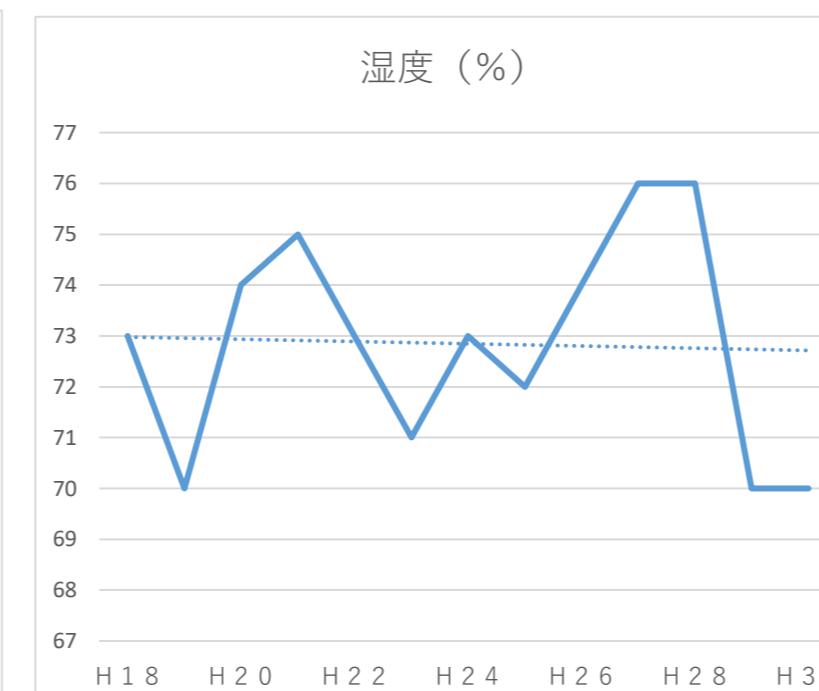
木津川市の気象データ



資料: 木津川市統計書

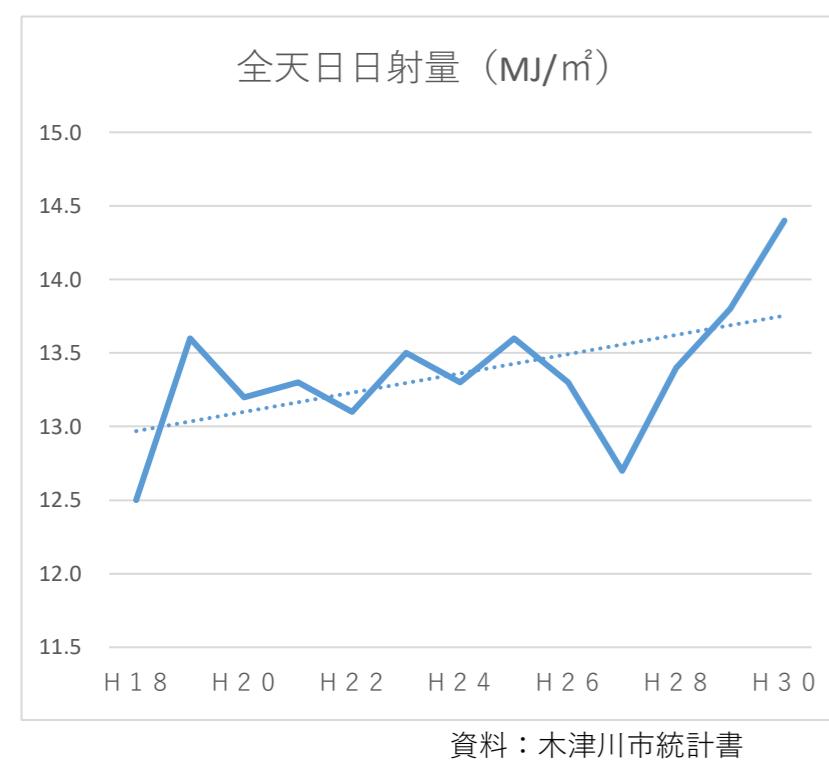


資料: 木津川市統計書



資料: 木津川市統計書

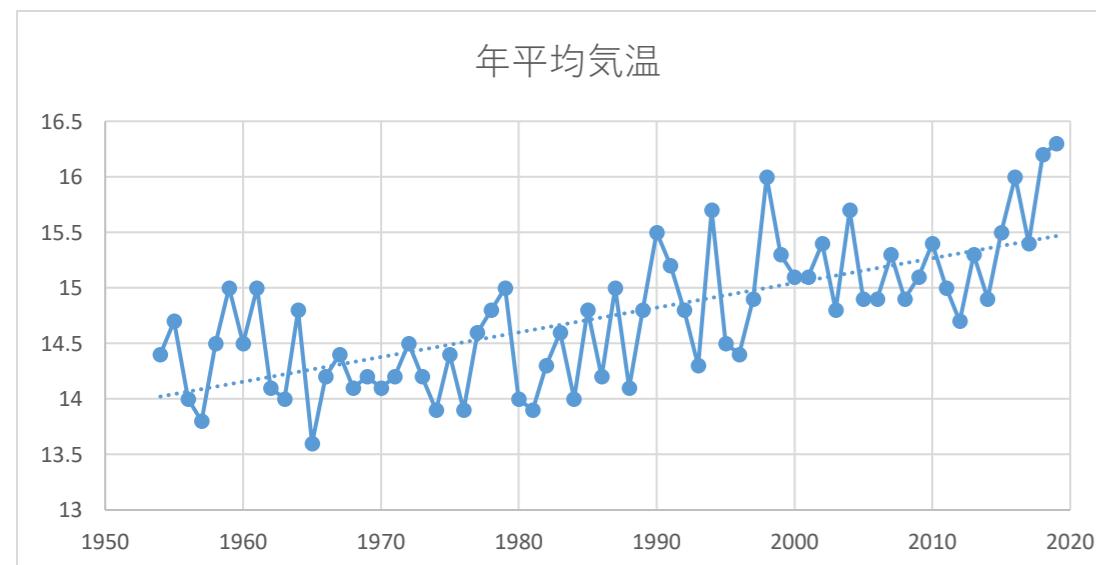
資料2-3



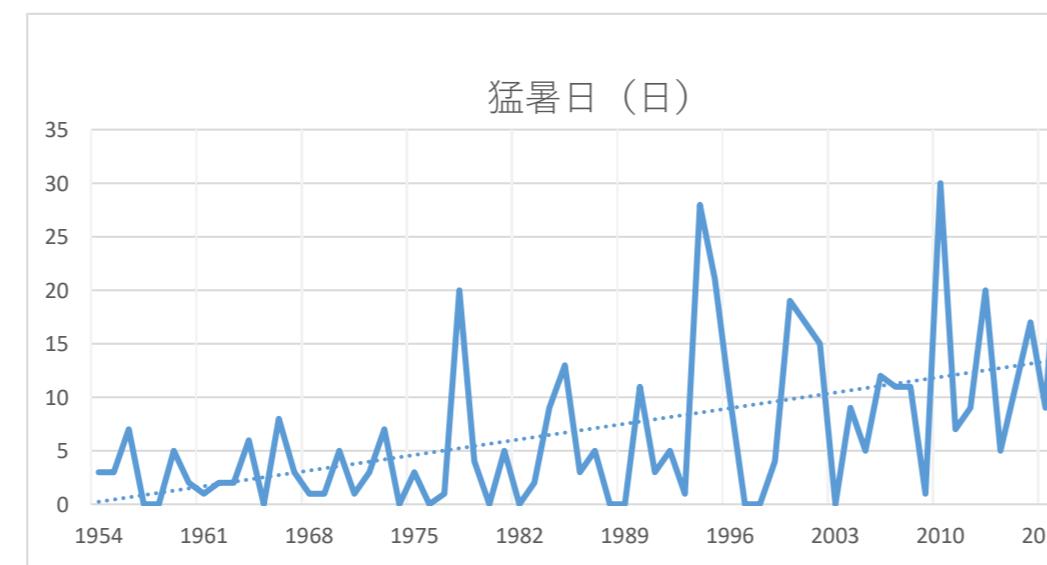
資料: 木津川市統計書



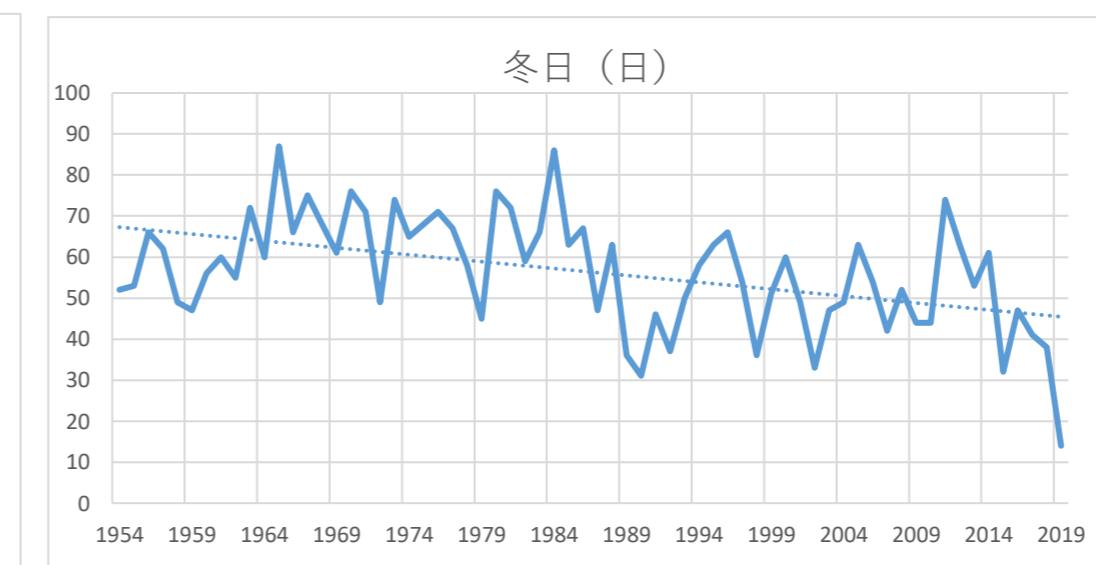
資料: 木津川市統計書



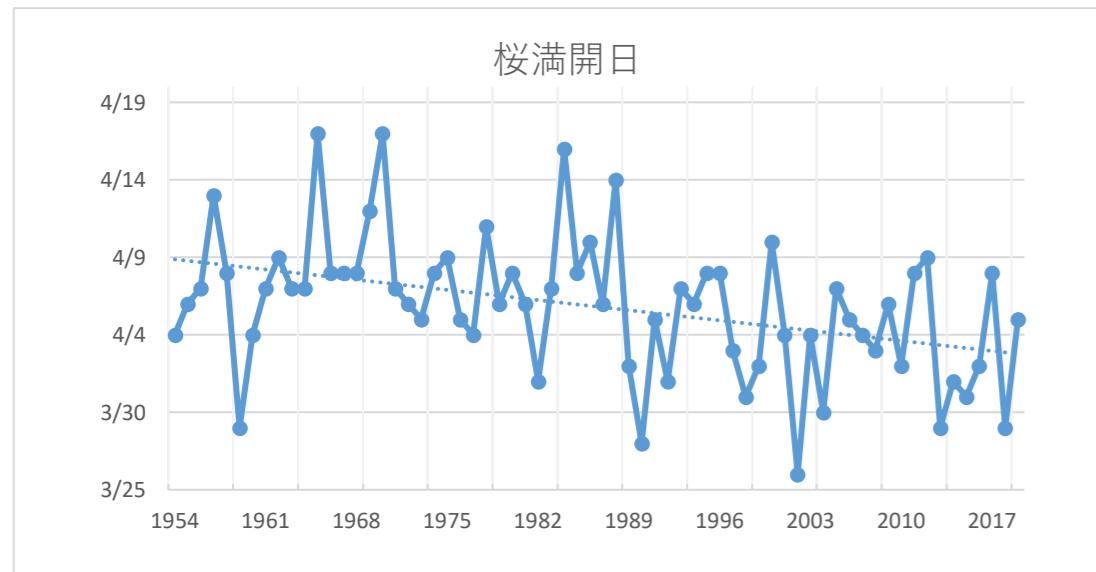
資料: 気象庁奈良地方気象台



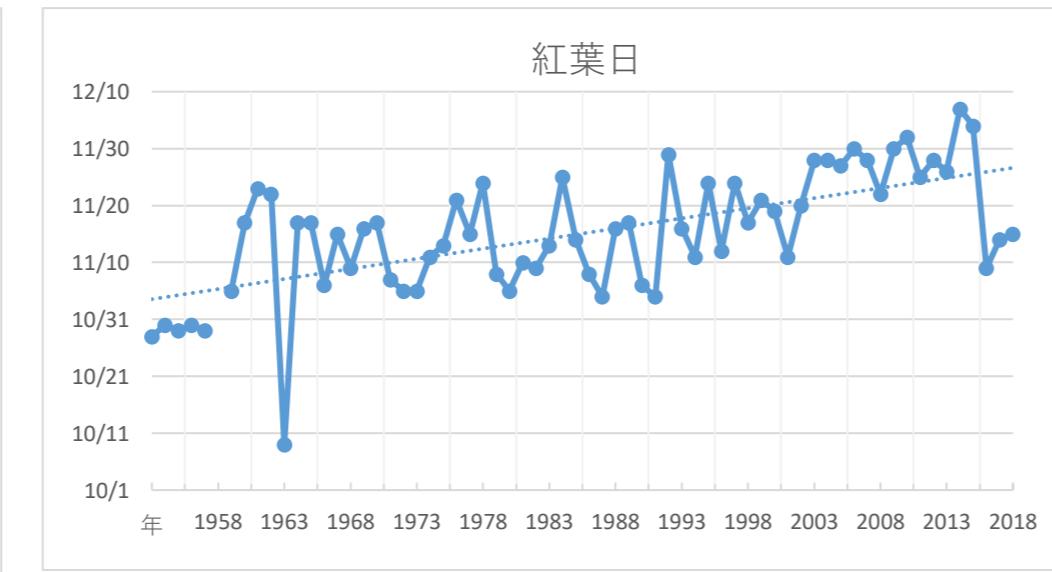
※猛暑日…日最高気温が35度以上の日。 資料: 気象庁奈良地方気象台



※冬日…日最低気温が0度未満の日 資料: 気象庁奈良地方気象台

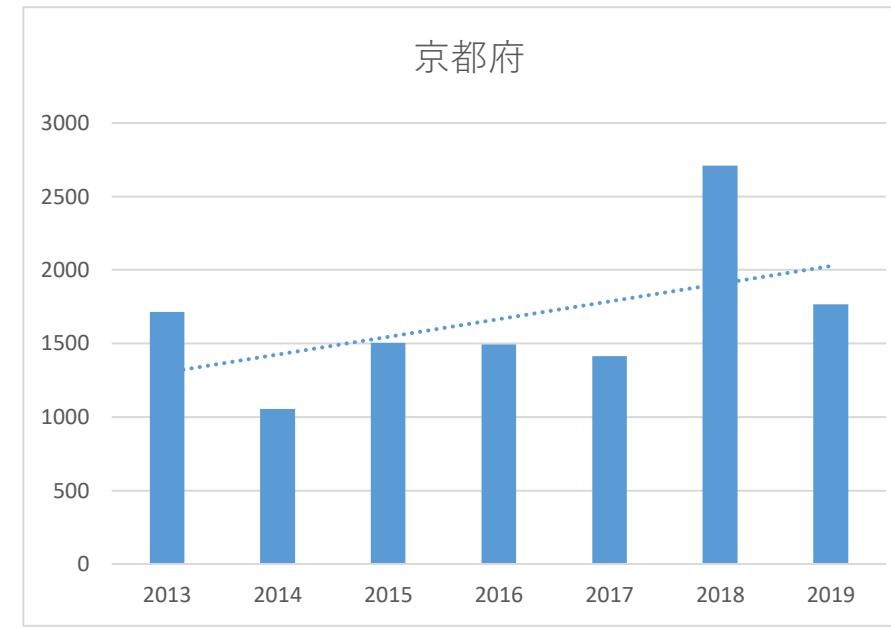
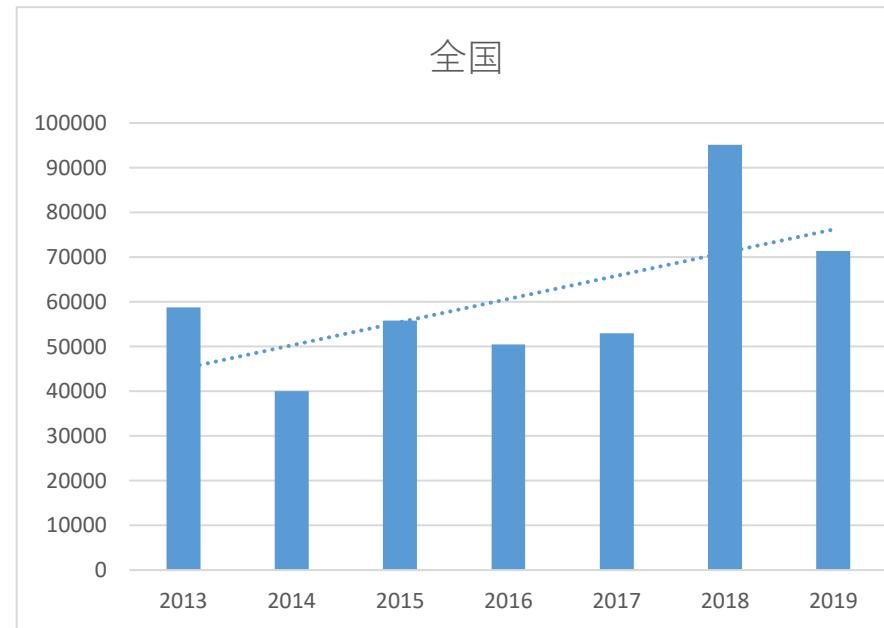


資料: 気象庁奈良地方気象台



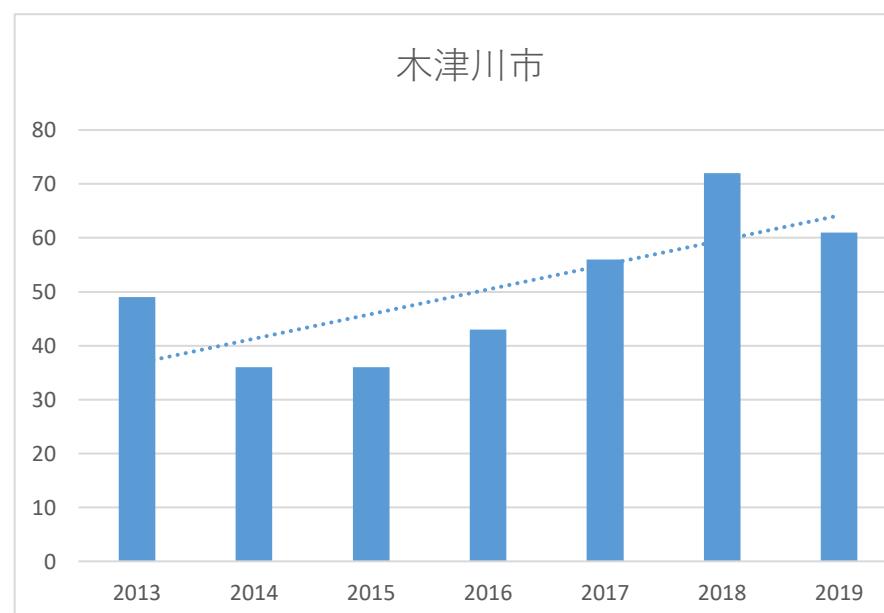
※紅葉日…植物を全体として眺めたときに、その葉の色が大部分紅色系統の色に変わり、緑色系統の色がほとんど認められなくなった最初の日

全国及び京都府における熱中症による救急搬送人員



※2013年と2014年は6月～9月。2015年～2019年は5月～9月。

木津川市における熱中症による救急搬送件数



資料：相楽中部消防組合

※いずれもその年の1月～12月末までの件数。

警報・注意報等の状況

各年12月31日現在

	合計	各年12月31日現在													
		大雨	洪水	大雪	風雪	強風	霜	乾燥	濃霧	雷	暴風	台風	なだれ	その他	高山ダム放流
平成23年	警報	12	6	2	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
	注意報	223	24	25	4	2	7	30	29	12	87	-	-	-	3
	情報・連絡	171	27	-	25	-	4	-	-	-	21	-	26	-	42
平成24年	警報	18	9	7	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
	注意報	288	38	36	1	-	12	22	43	15	115	-	-	-	6
	情報・連絡	328	52	-	32	-	-	-	-	-	62	-	18	-	148
平成25年	特別警報	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	警報	15	10	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	注意報	260	27	25	1	-	14	25	83	6	79	-	-	-	-
	情報・連絡	230	54	-	11	-	-	-	-	-	46	-	18	-	91
平成26年	特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	警報	15	6	5	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
	注意報	247	26	24	5	-	14	30	53	1	93	-	-	1	-
	情報・連絡	318	47	-	31	-	5	-	-	-	38	-	36	-	154
平成27年	特別警報	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	警報	13	1	4	5	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
	注意報	192	31	27	1	-	12	27	22	1	71	-	-	-	-
	情報・連絡	323	51	-	27	8	5	-	-	-	-	36	-	184	12
平成28年	特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	警報	9	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	注意報	252	43	40	1	1	6	18	29	3	84	-	-	-	27
	情報・連絡	262	37	-	9	13	2	-	-	-	38	-	21	-	132
平成29年	特別警報	23	10	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
	警報	389	53	32	13	7	19	22	88	16	139	-	-	-	
平成30年	特別警報	9	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	警報	315	31	11	2	1	13	33	80	13	131	-	-	-	
	情報・連絡	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

資料：木津川市統計書

電灯・電力の需要状況

	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
電灯	149,589	150,290	152,141	164,172	159,789	158,019	157,423	151,134	149,114
電力	18,524	17,139	16,210	16,323	15,247	14,845	14,994	13,714	12,859
合計	168,113	167,429	168,351	180,495	175,036	172,864	172,417	164,848	161,973

資料：木津川市統計書

都市ガスの供給状況

	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30
需要戸数（家庭用）	10,867	11,059	11,250	11,417	11,561	11,702	11,909	12,348	12,772	12,472	12,104
需要戸数（それ以外）	216	214	220	220	221	224	234	230	236	236	241
需要戸数（合計）	11,083	11,273	11,470	11,637	11,782	11,926	12,143	12,578	13,008	12,708	12,345
需要量（家庭用）（万m³）	607	621	642	646	652	639	643	627	652	689	632
需要量（それ以外）（万m³）	487	454	446	397	332	341	308	480	653	643	608
需要量（合計）（万m³）	1,094	1,075	1,088	1,043	984	980	951	1,107	1,305	1,332	1,240

資料：木津川市統計書

資料2-5

上水道の状況

【参考】計画給水人口 H 20～H 23 : 79,000人、H 24～H 30 : 80,000人

	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30
現在給水人口	66,930	67,828	68,874	69,653	70,289	70,584	71,615	72,901	73,919	76,378	77,463
総水戸数	24,336	24,689	24,957	25,483	25,953	26,346	27,059	27,833	28,498	29,819	30,577
年間総排水量（千m³）	7,890	8,029	8,132	8,098	7,882	8,002	8,207	8,113	8,116	8,324	8,344
年間総有収水量（千m³）	7,114	7,184	7,257	7,248	7,178	7,211	7,138	7,245	7,372	7,550	7,258
1日当たり平均配水量（m³）	21,616	21,998	22,280	22,186	21,593	21,925	22,486	22,227	22,234	22,804	22,859
1人当たり平均有収水量（ℓ）	291	290	289	285	280	280	273	272	273	271	257

資料：木津川市統計書

簡易水道の状況

【参考】計画給水人口 H 20～H 28 : 2,480人

	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
現在給水人口	1,949	1,865	1,818	1,775	1,729	1,679	1,634	1,591	1,567
総水戸数	690	683	682	670	687	678	670	669	658
年間総排水量（千m³）	302	273	290	246	210	189	183	178	155
年間総有収水量（千m³）	189	180	180	173	165	157	152	150	148
1日当たり平均配水量（m³）	829	747	795	673	576	518	501	488	424
1人当たり平均有収水量（ℓ）	265	265	271	266	261	256	255	258	258

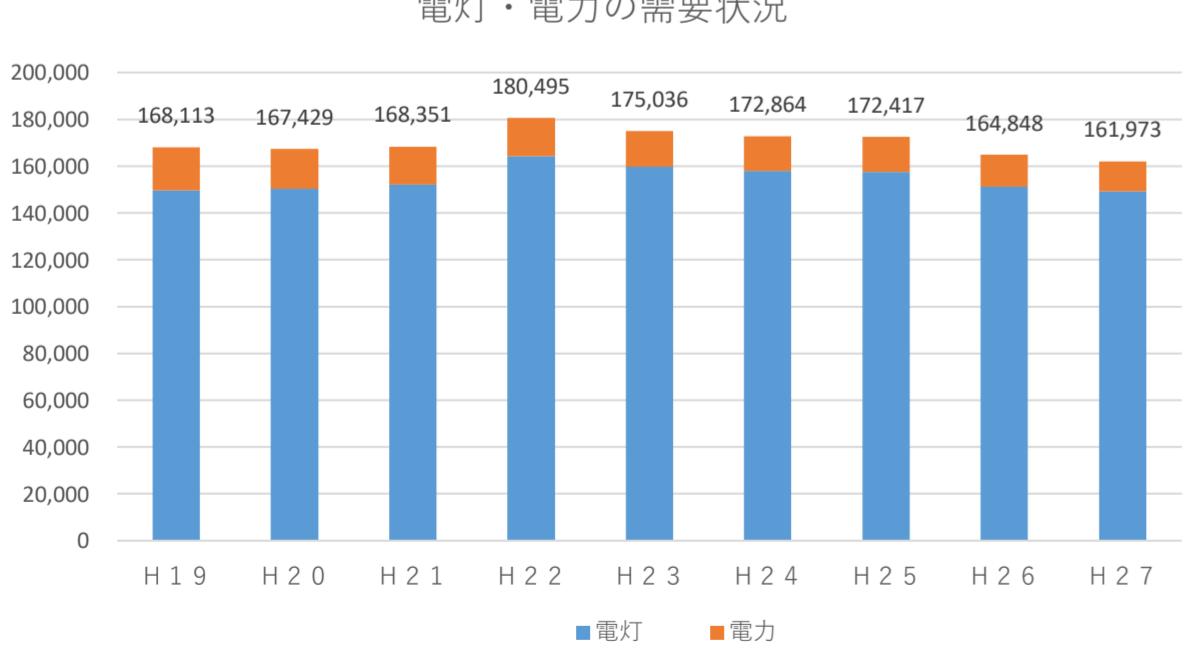
資料：木津川市統計書

水道の普及状況

	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30
総人口	68,922	69,789	70,788	71,524	72,114	72,359	73,319	74,561	75,555	76,447	77,532
上水道施設数	27	27	26	26	26	27	27	27	27	32	32
簡易水道施設数	7	7	7	7	7	7	7	5	5		
施設数合計	34	34	33	33	33	34	34	32	32	32	
上水道給水人口	66,930	67,828	68,874	69,653	70,289	70,584	71,615	72,901	73,919	76,378	77,463
簡易水道給水人口	1,949	1,865	1,818	1,775	1,729	1,679	1,634	1,591	1,567		
給水人口合計	68,879	69,693	70,692	71,428	72,018	72,263	73,249	74,492	75,486	76,378	77,463
普及率	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9

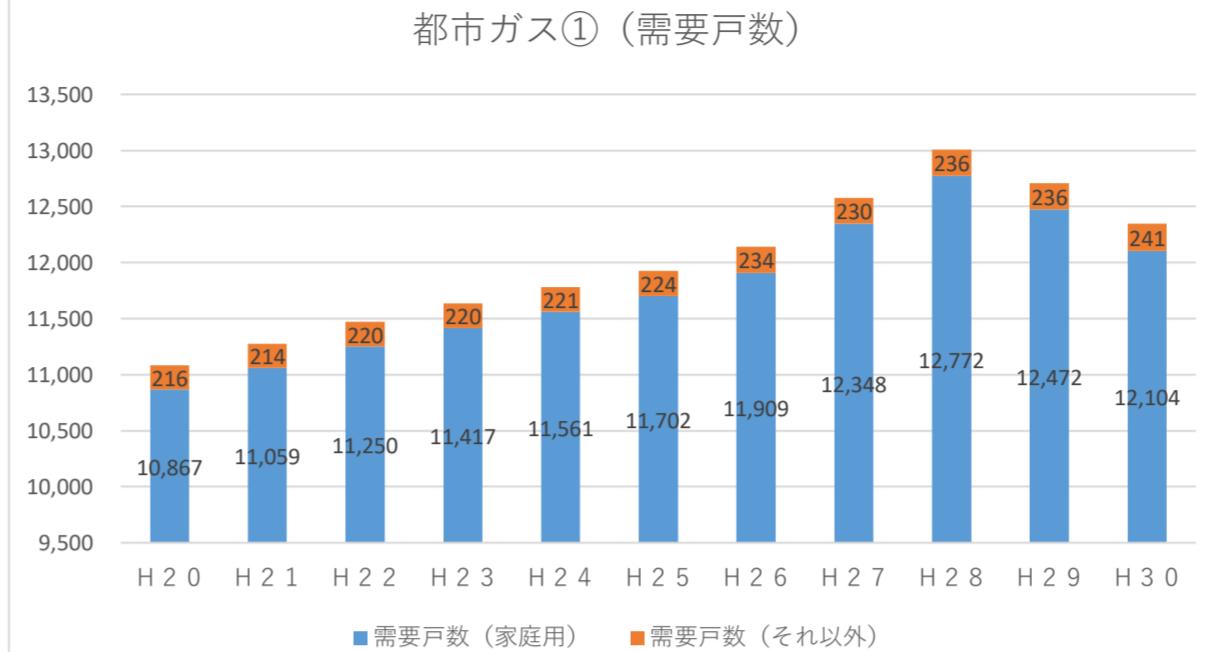
資料：木津川市統計書

電灯・電力の需要状況

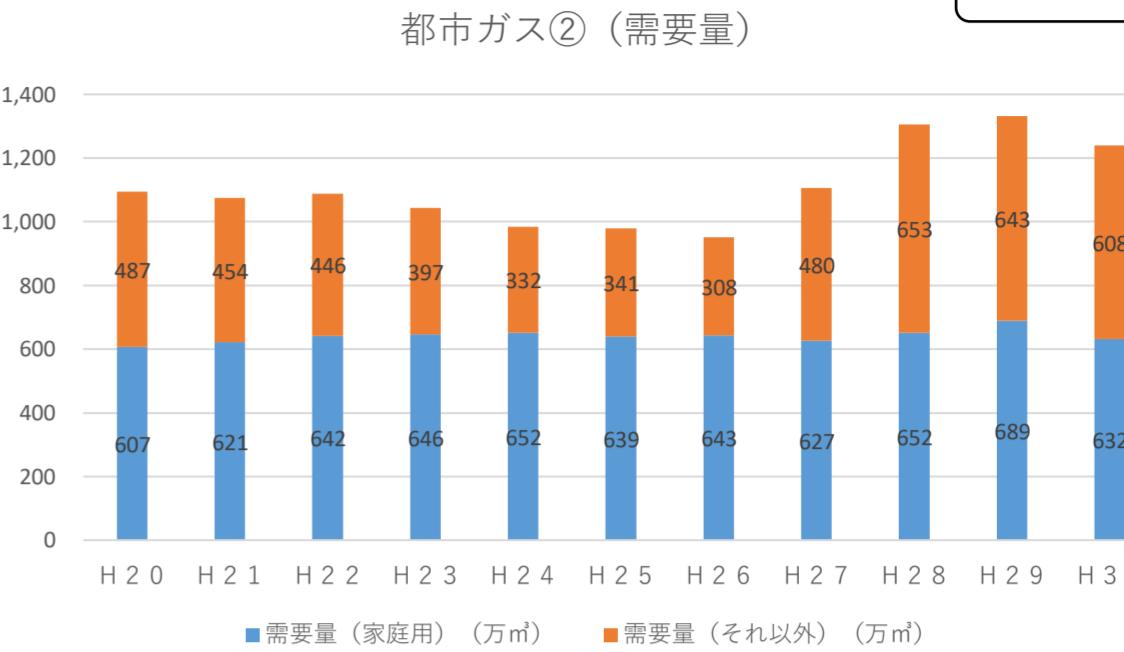


資料：木津川市統計書

都市ガス①（需要戸数）



都市ガス②（需要量）



○生活排水処理方法別人口等（平成31年度末時点）

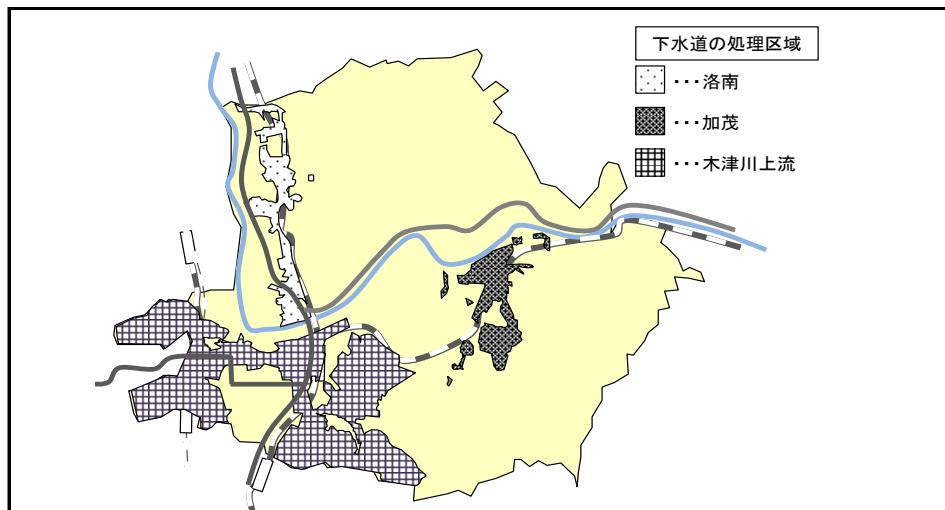
資料2-6

下水道の状況 (区域)			住民基本 台帳人口 (人)	下水道 処理人口 (人)	下水道 接続人口 (人)	合併処理浄化槽 使用人口		単独処理浄化槽 使用人口		汲み取り 人口 (人)	その他／ 不明人口 (人)
計画	事業計画	供用開始				(人)	(基)	(人)	(基)		
木津川市全域			78,413	73,041	68,837	4,468	1,272	1,860	1,268	3,211	37
下水道 整備区域	あり	あり	73,041	73,041	68,837	97	40	1,152	816	2,955	0
	なし	なし	2,161			1,496	670	444	303	193	28
	なし	なし	1,974			1,759	216	143	98	63	9
浄化槽 整備区域	-	-	1,237			1,116	346	121	51		
人口比			100.0%	93.1%	87.8%	5.7%		2.4%		4.1%	0.0%

主な指標・用語 値 説明

下水道処理人口	73,041人	供用が開始された下水道事業計画区域内の人口(下水道に接続することができる人口)
下水道接続人口	68,837人	供用が開始された下水道事業計画区域内で実際に下水道に接続している人口
下水道接続率	94.2%	下水道処理人口(73,041人)に対する、下水道接続人口(68,837人)の比率
汚水処理人口	77,412人	下水道処理人口に、下水道供用開始区域以外の合併処理浄化槽使用人口を加えた人口(※表の赤枠囲み部分の人口)
汚水処理人口普及率	98.7%	住民基本台帳人口(78,413人)に対する、汚水処理人口(77,412人)の比率
浄化槽	排水・し尿を、各戸で微生物を利用して浄化し、放流する設備です。下水道のような排水管網を必要としません。	
合併処理浄化槽	トイレの排水・し尿、台所・風呂場等の排水を併せて処理する浄化槽です。下水道区域以外の設置に補助制度があります。	
単独処理浄化槽	トイレの排水・し尿のみを処理する浄化槽です。平成13年4月以降、新設が禁止されました。	

木津川市下水道事業計画区域



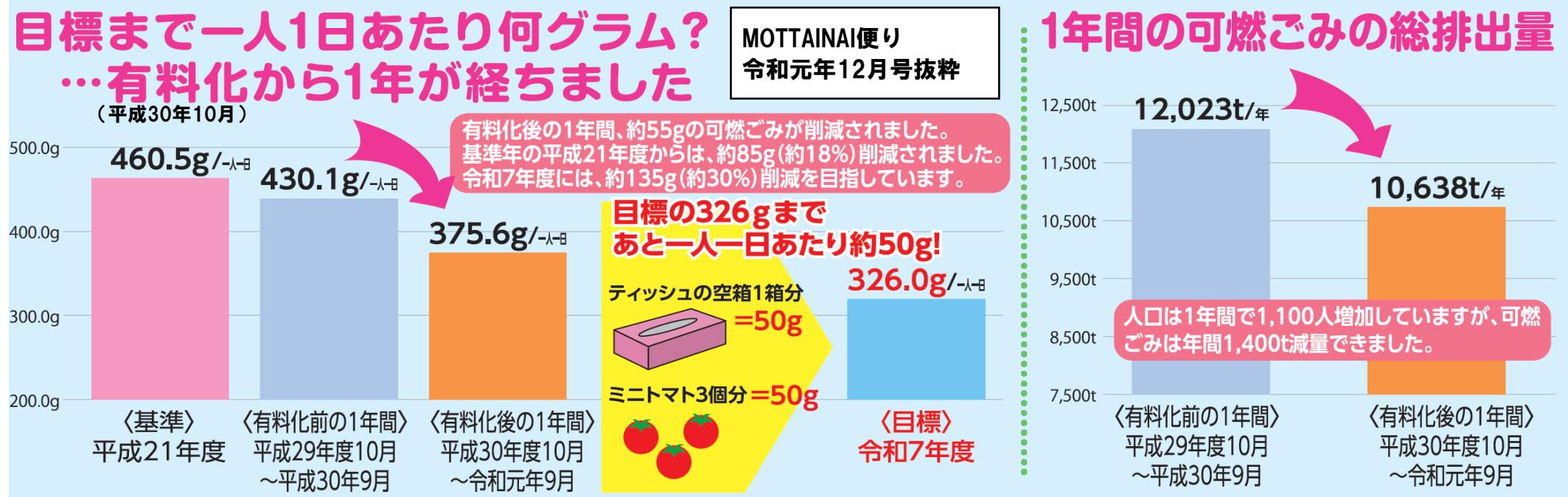
排水処理方法のあらまし

	処理方法	接続/使用人口	排水処理
下水道	木津川上流 (旧木津町)	52,688	(京都府の流域下水道)木津川上流浄化センター(精華町)で処理後、木津川に放流
	加茂 (旧加茂町)	10,649	(木津川市の公共下水道)加茂浄化センター(木津川市)で処理後、木津川に放流
	洛南 (旧山城町)	5,500	(京都府の流域下水道)洛南浄化センター(八幡市)で処理後、宇治川に放流
	計	68,837	
浄化槽(汚泥)		6,328	(相楽郡広域事務組合の処理場)大谷処理場
汲み取り		3,211	(木津川市)で処理後、木津川に放流

○有料化前後の家庭系可燃ごみ排出量の推移

※「排出量原単位」とは、1人が1日に出すごみの量です。

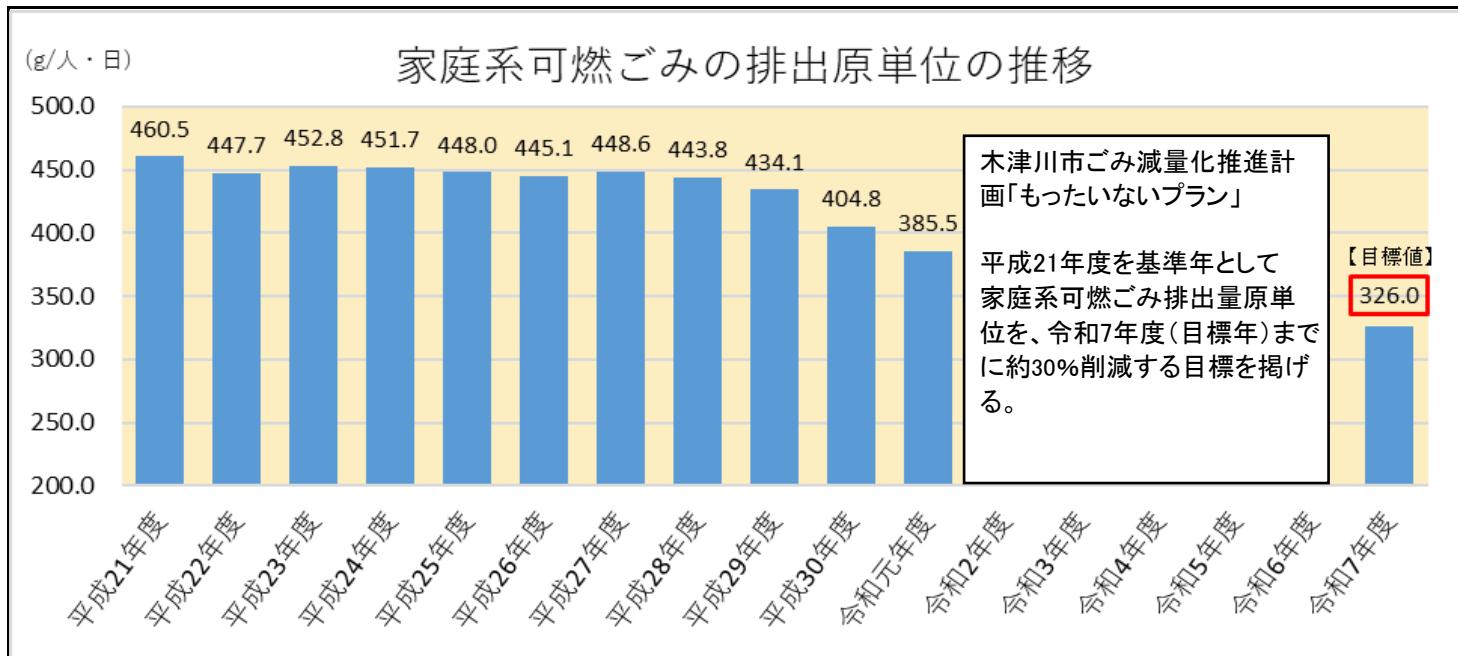
資料2-7



排出量原単位推移（直近3年度）

	家庭系可燃ごみ排出原単位(g/人・日)		
	H29	H30	R01
4月	446.4	444.0	399.0
5月	489.3	462.6	416.3
6月	439.6	429.8	366.7
7月	445.3	429.6	407.7
8月	466.7	429.2	392.5
9月	446.5	497.7	366.0
10月	430.0	360.0	382.7
11月	436.4	364.0	382.4
12月	428.2	374.8	378.1
1月	410.1	378.8	403.6
2月	362.6	336.5	346.1
3月	401.4	344.8	380.9
年間	434.1	404.8	385.5

排出量原単位推移（平成21年度以降）

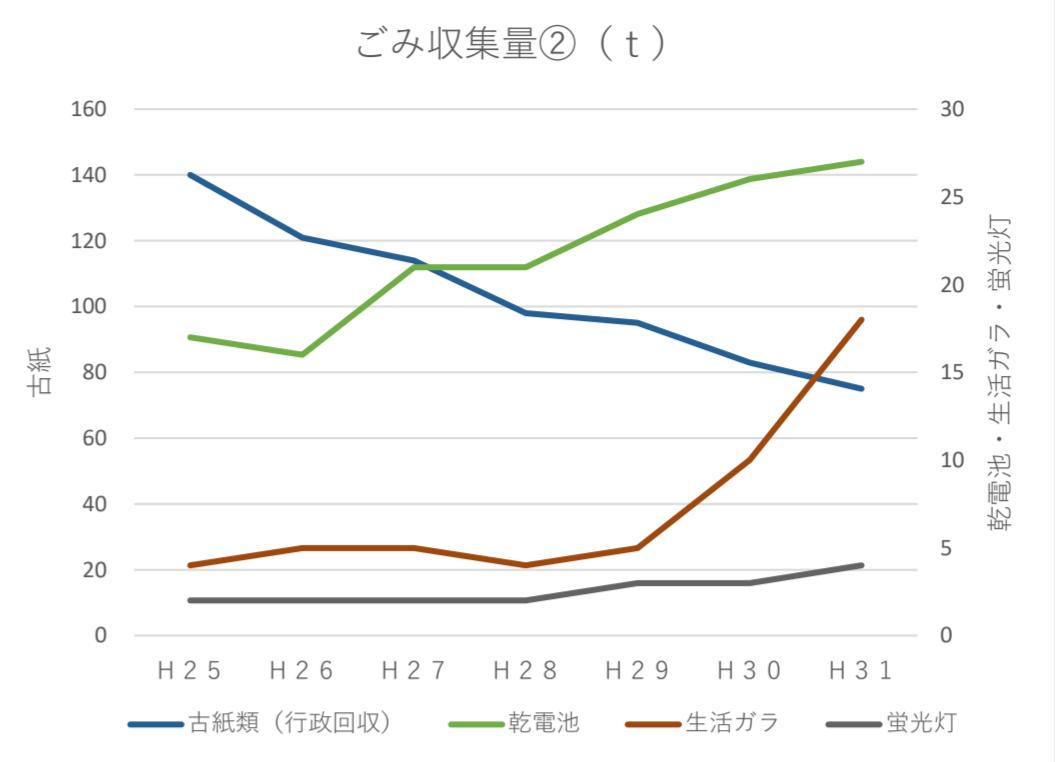
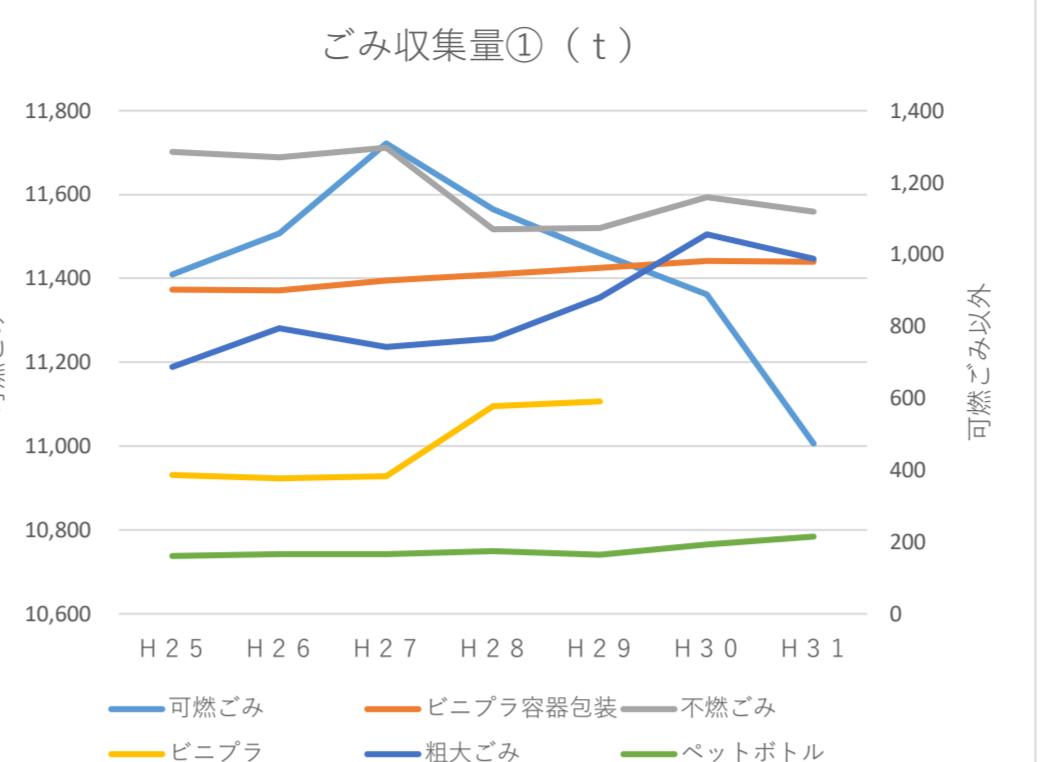


ごみ処理状況等

1 ごみ収集量

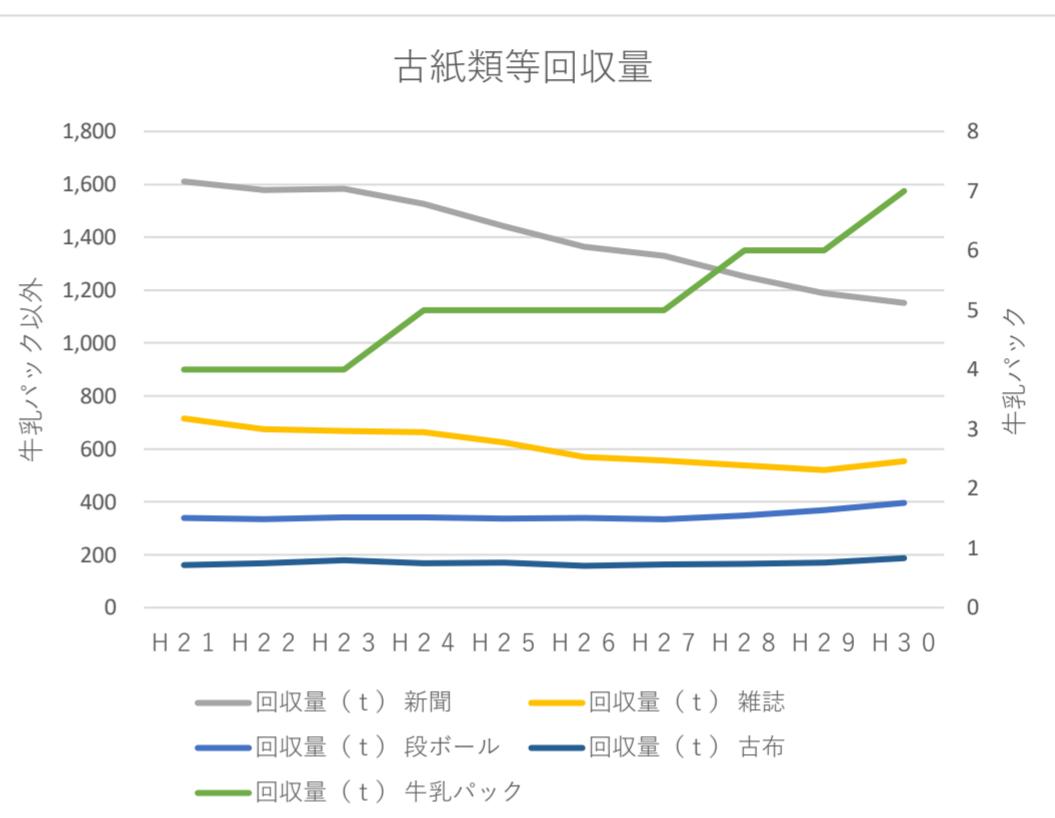
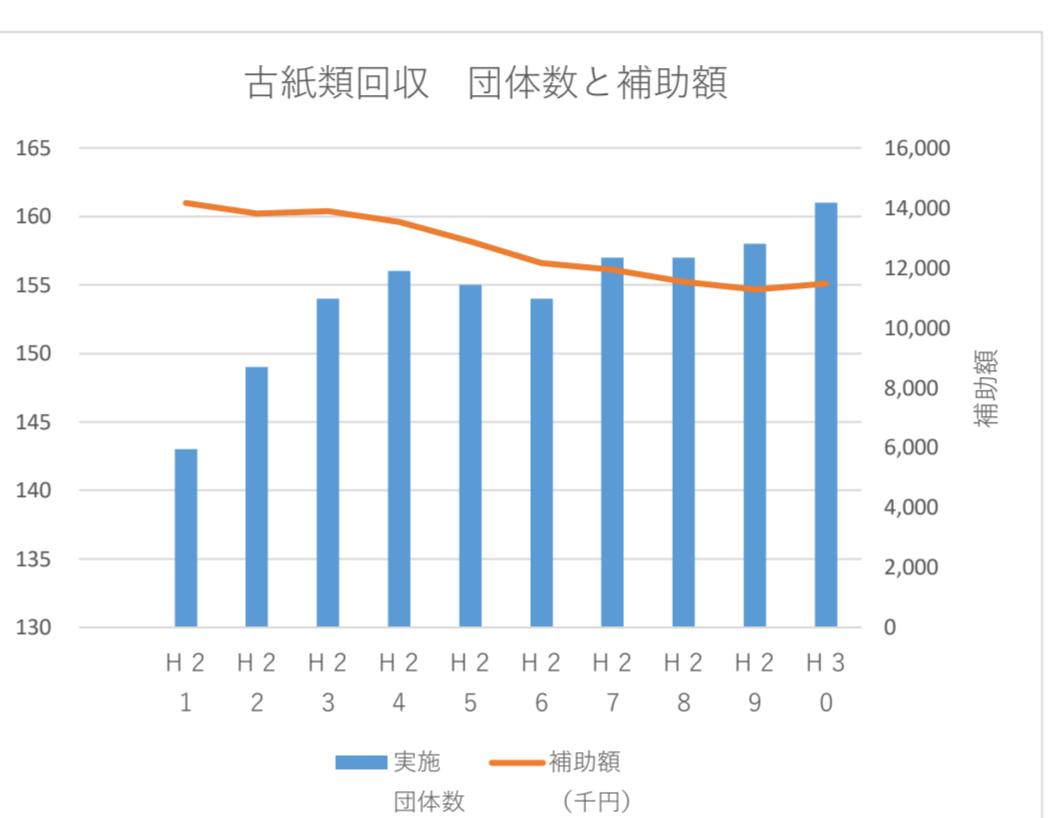
	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1
可燃ごみ	11,410	11,507	11,722	11,565	11,460	11,362	11,006
ビニプラ容器包装	903	900	928	944	963	982	979
不燃ごみ	1,286	1,270	1,297	1,070	1,074	1,159	1,119
ビニプラ	387	377	383	578	591		
粗大ごみ	687	794	743	766	881	1,056	988
ペットボトル	161	166	167	174	165	193	215
乾電池	17	16	21	21	24	26	27
古紙類（行政回収）	140	121	114	98	95	83	75
生活ガラ	4	5	5	4	5	10	18
蛍光灯	2	2	2	2	3	3	4
合計	14,997	15,158	15,382	15,222	15,261	14,874	14,431

資料：一般会計決算結果の報告書



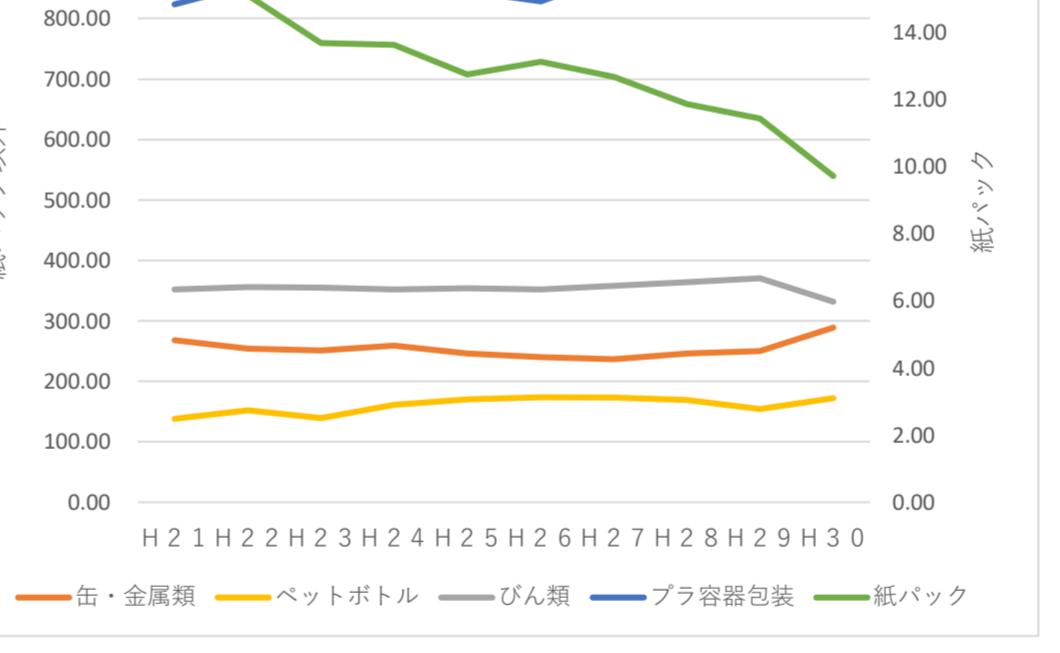
2 古紙類等回収事業実施補助件数

	実施 団体数	補助額 (千円)	回収量 (t)				
			新聞	雑誌	段ボール	牛乳パック	古布
H 2 1	143	14,161	1,611	715	339	4	162
H 2 2	149	13,815	1,578	675	335	4	168
H 2 3	154	13,885	1,584	667	341	4	179
H 2 4	156	13,525	1,527	664	342	5	167
H 2 5	155	12,885	1,442	625	336	5	169
H 2 6	154	12,164	1,364	569	338	5	158
H 2 7	157	11,937	1,330	556	334	5	163
H 2 8	157	11,539	1,252	538	347	6	165
H 2 9	158	11,274	1,188	520	369	6	171
H 3 0	161	11,478	1,152	554	396	7	187



3 リサイクル事業の状況

	合計	缶・金属類	びん類	ペットボトル	プラス容器包装	紙パック	(単位: t)	
							新聞	雑誌
H 2 1	1,597.71	268.48	352.01	137.93	823.45	15.84		
H 2 2	1,632.07	253.88	355.66	152.02	855.41	15.10		
H 2 3	1,602.84	251.08	355.04	139.02	844.03	13.67		
H 2 4	1,667.90	259.14	351.66	161.57	881.91	13.62		
H 2 5	1,628.76	246.52	353.74	170.18	845.58	12.74		
H 2 6	1,607.46	239.66	352.26	173.57	828.85	13.12		
H 2 7	1,652.01	236.53	357.65	173.08	872.08	12.67		
H 2 8	1,690.99	245.70	364.04	169.10	900.29	11.86		
H 2 9	1,628.72	249.73	370.40	154.42	842.75	11.42		
H 3 0	1,655.06	288.88	331.60	172.55	852.32	9.71		



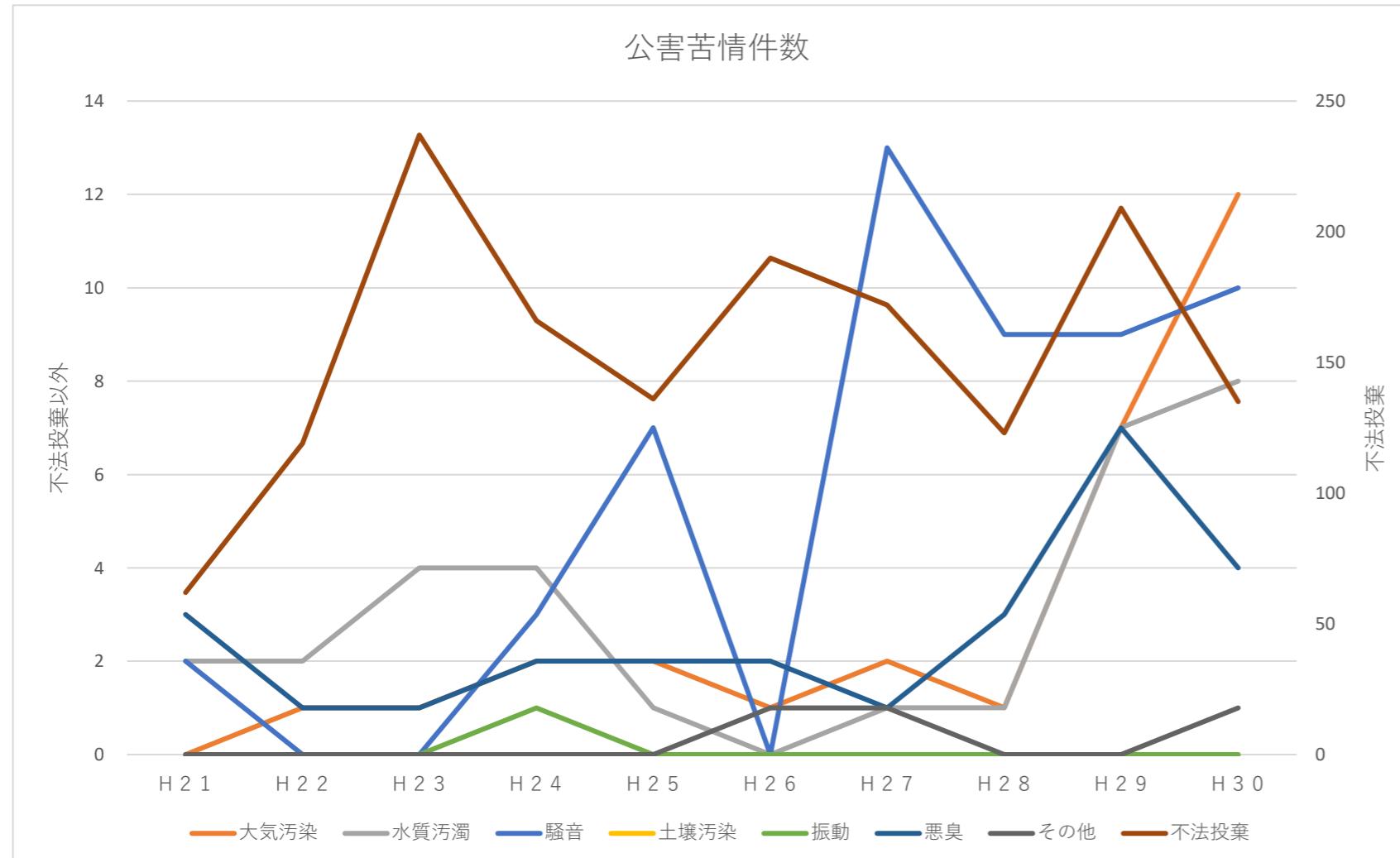
公害苦情の状況

(単位：件)

	総数	大気汚染	水質汚濁	土壤汚染	騒音	振動	悪臭	不法投棄	その他
H 2 1	69	0	2	0	2	0	3	62	0
H 2 2	123	1	2	0	0	0	1	119	0
H 2 3	243	1	4	0	0	0	1	237	0
H 2 4	185	2	4	0	3	1	2	166	0
H 2 5	148	2	1	0	7	0	2	136	0
H 2 6	194	1	0	0	0	0	2	190	1
H 2 7	190	2	1	0	13	0	1	172	1
H 2 8	137	1	1	0	9	0	3	123	0
H 2 9	239	7	7	0	9	0	7	209	0
H 3 0	170	12	8	0	10	0	4	135	1

資料2-9

資料：木津川市統計書



鳥獣による農林水産業等に係る被害の状況

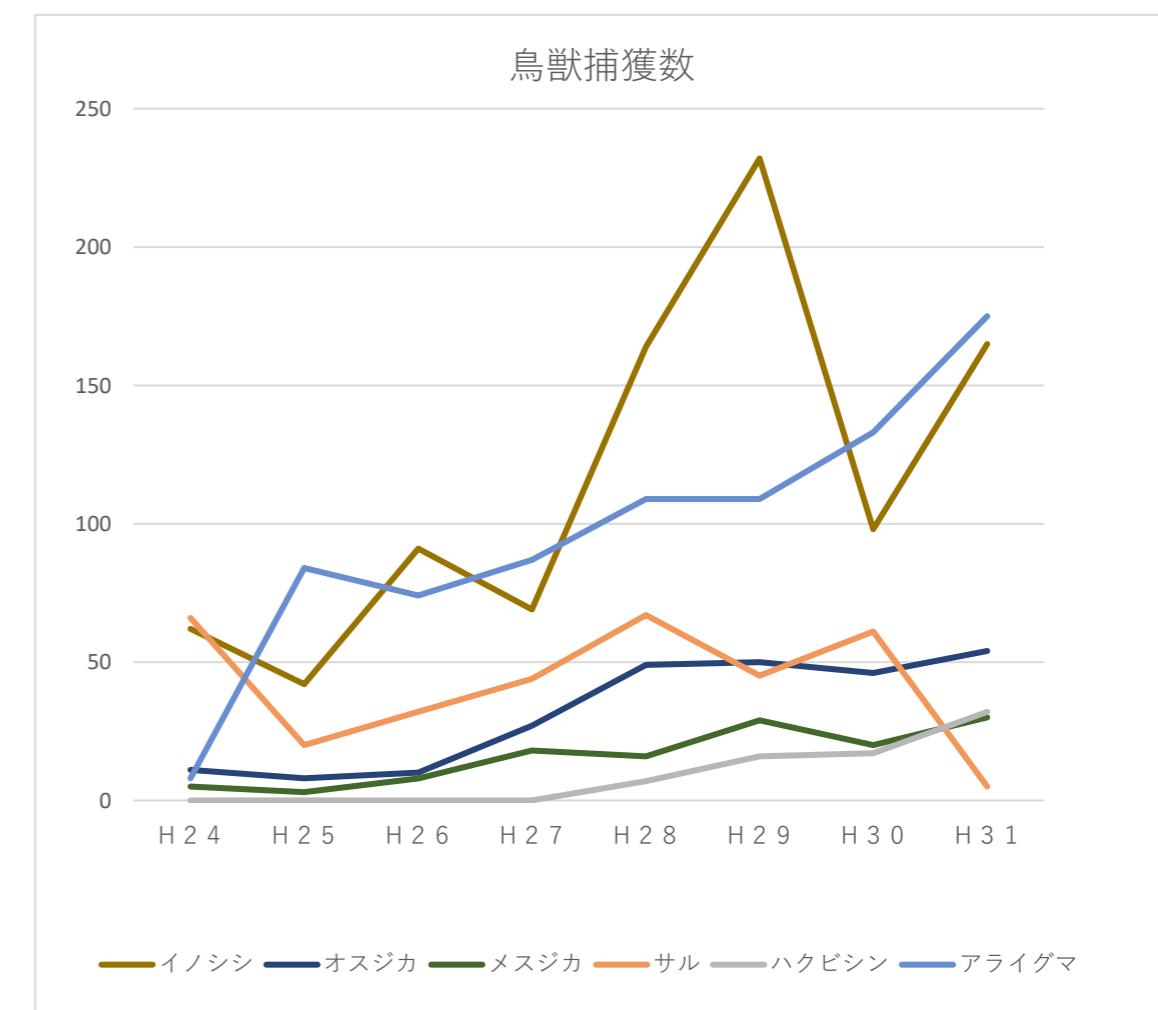
【獣類】	H 2 8		H 3 1	
	被害面積 (a)	被害額 (千円)	被害面積 (a)	被害額 (千円)
イノシシ	91	1955	159	1756
ニホンジカ	55	1113	31	380
ニホンザル	118	1778	19	199
アライグマ	35	476	36	544
ヌートリア	4	42	4	40
ハクビシン	11	154	12	216
アナグマ	7	121	3	24
タヌキ			7	95
【鳥類】				
カラス	35	769	30	736
ムクドリ	40	1100	34	1015
ヒヨドリ	102	1811	43	884
ハト類	13	822	7	387

資料：木津川市鳥獣被害防止計画

鳥獣捕獲数

【鳥類】	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1
ムクドリ	158	191	144	179	180	146	118	102
キジバト	56	93	47	78	95	92	46	45
カラス	289	160	195	159	197	145	119	86
ヒヨドリ	126	15	33	61	44	188	47	22
ドバト	97	107	126	83	111	103	77	68
カワウ	5	6	1	2	1	4	1	0
合計	731	572	546	562	628	678	408	323
【獣類】								
イノシシ	62	42	91	69	164	232	98	165
オスジカ	11	8	10	27	49	50	46	54
メスジカ	5	3	8	18	16	29	20	30
ヌートリア	8	0	2	12	12	2	5	0
サル	66	20	32	44	67	45	61	5
ハクビシン	0	0	0	0	7	16	17	32
アナグマ	0	0	0	0	2	7	4	6
アライグマ	8	84	74	87	109	109	133	175
合計	160	157	217	257	426	490	384	467
総合計	891	729	763	819	1054	1168	792	790

資料：木津川市鳥獣被害防止計画



資料2-10

市の事務・事業による温室効果ガス総排出量の推移

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
温室効果ガスの総排出量 (t-CO ₂)	4,970	6,381	7,378	8,182	8,034	8,010	8,046	6,883
↓ ↓ ↓								
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
※排出係数を固定した場合	5,504	5,268	5,422	5,940	5,735	5,933	5,981	5,830

※関西電力㈱の排出係数をH21年度(0.355)に、株Loopの排出係数をH29年度(0.503)に固定したもの（市における株Loop電力使用はH29年度から）

H30年度の温室効果ガスの種類別の排出状況

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量	比率
二酸化炭素(CO ₂)	6,779 t-CO ₂	98.5%
メタン(CH ₄)	40 t-CO ₂	0.6%
一酸化二窒素(N ₂ O)	64 t-CO ₂	0.9%

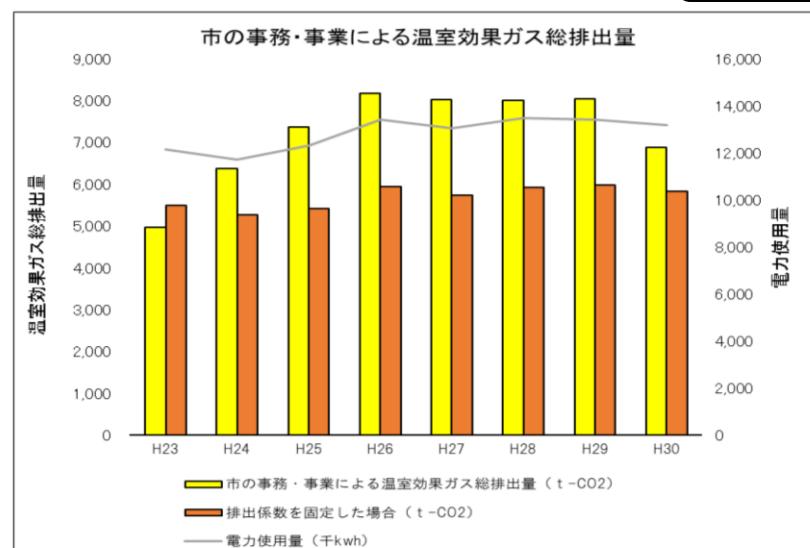
H30年度の燃料・電力の使用による二酸化炭素の排出状況

項目	活動量	二酸化炭素(CO ₂)排出量	構成比
燃料の使用	ガソリン(公用車)	40,702 L	94 t
	ガソリン	158 L	0 t
	灯油	69,466 L	173 t
	軽油(公用車)	2,768 L	7 t
	軽油	173 L	1 t
	A重油	92,600 L	251 t
	液化石油ガス(LPG)	144,986 kg	435 t
	都市ガス	33,001 m ³	74 t
電力の使用	13,196,615 kWh	5,744 t	84.7%
合計		6,779 t	

※灯油：おもに小中学校の暖房に使用 ※重油：おもに給食センターや共同浴場で使用

※液化石油ガス：おもに本庁舎の冷暖房や給湯で使用

温室効果ガス総排出量の大部分を電力の使用によるものが占めている。



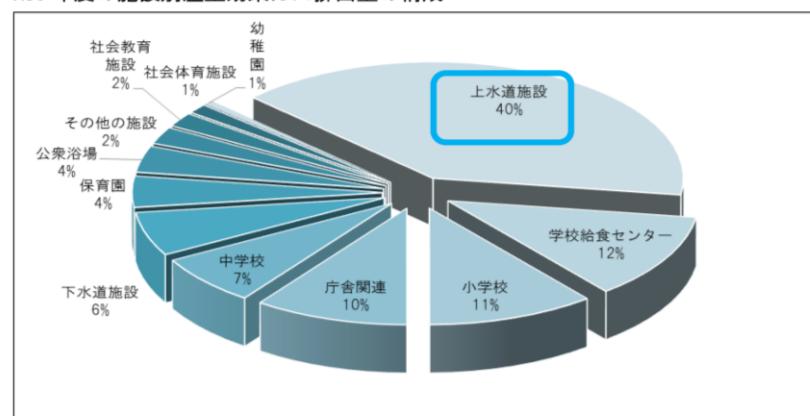
電力使用量の推移

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
電力使用量(千kwh)	12,151	11,711	12,305	13,429	13,061	13,489	13,420	13,197

※H26: 城山台小学校開校など ※H30: 加茂プラネタリウム館・山の家廃止など

H30年度の電力使用量13,197千kwhのうち、約4割にあたる5,208千kwhが上水道施設(浄水場・配水池・ポンプ場等)によるもの。

H30年度の施設別温室効果ガス排出量の構成



木津川市の生き物調査について（データまとめ）

木津川市として生物多様性について実施した調査は、木津川市学研北地区における調査のみで、その他の地区の調査は実施されていない。但し、木津川市内では多くの民間団体が自然観察を行っており、木津川河川における自然観察は、木津川河川レンジャーとNPO法人やましろ里山の会によって実施されている。また、加茂地区の植物については、『加茂町四季の植物』（西澤公男著）があり、今回これらの資料のもとに、木津川市内の動植物の現状についてまとめてみた。

木津川市学研北地区における生態系調査について（主に動植物）

■木津川市では、平成26年2月に『生物多様性木津川市地域連携保全活動計画 みもろつく鹿背山再生プラン』を策定し、学研木津北地区を「里山の維持再生ゾーン」と位置づけました。この策定プランを制定するにあたり、平成23年冬から平成24年春にかけて都市計画課で学研木津北地区での生態系調査実施し、その後も継続的に生物調査が実施されている。下記は『生物多様性木津川市地域連携保全活動計画 みもろつく鹿背山再生プラン』に記載されている調査結果である。

植生：西側から中央部にかけて、モウソウチク林の広がりとアカマツ林内でのコナラが成長する傾向にあり、アカマツ林が減少している。その結果、コバノミツバツツジやモチツツジなど、明るい林の中で花を咲かせる樹木が目立たなくなっている。

下記がその他の動植物調査結果（平成23年度）。

類	種類	主な動植物
哺乳類	3目6科7種	ノウサギ、キツネ、タヌキ、アライグマ、テン、イタチの一種、イノシシ、ニホンジカ
鳥類	14目34科71種	オオタカ、ミサゴ、ハイタカ、サシバ、フクロウなど
両生類	2目5科9種	カスミサンショウウオ、モリアオガエル、トノサマガエルなど
爬虫類	2目7科12種	クサガメ、イシガメ、ニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウなど
昆虫類	チョウ類	イチモンジセセリ、ルリシジミ、オオヒカゲなど
	トンボ類	ムカシヤンマ、オグマサナエ、キイロサナエなど
	セミ類	クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ
	その他	ヘイケボタル、ゲンジボタル、カブトムシ、ミヤマクワガタなど
植物	103科381種 (シダ類10科17種)	コクラン、ギンラン、ムヨウラン、イチヤクソウ、ササユリなど

この調査で確認できた絶滅危惧種の動植物リストをもとに、都市計画課が平成27年度に実施した調査結果および木津川管内河川レンジャー（福井波恵氏）実施の調査をまとめたものは次ページのとおり。

木津川市内の生物調査（まとめ）

類名	目名	科名	種名	京都府RED	環境省RL	都市計画課 調査※	都市計画課 調査※	木津川管内河川 レンジャー調査 ※
						H23年度	H27年度	H21年～R1年
鳥	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	準絶滅危惧種		○		○
		タカ	ミサゴ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	○	○	○
			オオタカ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	○	○	○
			ハイタカ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	○	○	○
			ノスリ	準絶滅危惧種		○	○	○
			サシバ	絶滅危惧種	絶滅危惧 II 種	○		
			ハイタカ	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	○		
		ハヤブサ	ハヤブサ	絶滅危惧種	絶滅危惧 II 種	○	○	○
	キジ	キジ	ヤマドリ	準絶滅危惧種		○		○
	ツル	クイナ	オオバン	準絶滅危惧種		○		○
両生	チドリ	シギ	ヤマシギ	絶滅危惧種		○		
			アオシギ	絶滅危惧種		○		
	ハト	ハト	アオバト	絶滅危惧種		○		
	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	絶滅危惧種		○		
	フクロウ	フクロウ	フクロウ	準絶滅危惧種		○		○
	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	準絶滅危惧種		○		○
		スズメ	ツバメ	イワツバメ	準絶滅危惧種	○		
			サンショウクイ	サンショウクイ	絶滅危惧種	○		
			カササギビタキ	カササギビタキ	準絶滅危惧種	○		
は虫	サンショウウオ	サンショウウオ	カスミサンショウウオ	絶滅寸前種	絶滅危惧 II 種	○		○
	イモリ	イモリ	イモリ	要注目種		○		
		カエル	ニホンアカガエル	要注目種		○		
			トノサマガエル	要注目種		○		
			スマガエル	要注目種		○		
		アオガエル	シュレーダーアオガエル	要注目種		○		
			モリアオガエル	要注目種		○		○
昆虫	トカゲ	トカゲ	トカゲ	要注目種		○		
		ナミヘビ	シマヘビ	要注目種		○		
			シロマダラ	要注目種		○		
			ヒバカリ	要注目種		○		
		クサリヘビ	マムシ	要注目種		○		
植物	チョウ		ジャコウアゲハ					○
	トンボ	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	準絶滅危惧種				
		サナエトンボ	オグマサナエ		絶滅危惧 II 種	○		
	コウチュウ	ホタル	ゲンジボタル	要注目種		○		
			ヘイケボタル	要注目種		○		
	ラン		ギンラン	準絶滅危惧種		○		○
			ムヨウラン	絶滅寸前種		○		
			コクリラン	準絶滅危惧種		○	○	○
	アカバナ		ミズユキノシタ	要注目種		○		

※都市計画課調査 平成23年度分『生物多様性木津川市地域連携保全活動計画 みもろつく鹿背山再生プラン』、平成27年度分は継続調査分を記載
※木津川管内河川レンジャー調査については、河川レンジャーである福井波恵氏が実施した自然観察会での記録をもとに作成。

木津川と支流生き物リスト

類名	目名	種名	京都府 RED	環境省RL	木津川管内河川 レンジャー調査 H22年・H25年 開橋	木津川管内河川 レンジャー調査 H25年・H29年 新川	木津川管内河川 レンジャー調査 H22年～25年 鹿川
魚	魚	カジカ			○	○	
		ウキゴリ			○		
		ナマズ			○		○
		ニゴイ			○		○
		アユ			○		
		ウナギ			○		
		ギギ			○		
		コクチバス			○		○
		タイリクバラタ			○		
		ナゴ					
		ムギツク			○		
		ヨシノボリ			○	○	○
		カマツカ				○	○
		ドンコ				○	
		カワムツ				○	
		ドンコ				○	
		ヌマムツ					○
		ゼゼラ					○
	魚	タウナギ			○	○	○
		ドジョウ				○	○
		ヌマエビ			○		○
		スジエビ			○		○
		サワガニ				○	
		クサガメ			○		○
		イシガメ			○	○	
		アカミミガメ			○		○
		スッポン					○
両生類	カエル	トノサマガエル				○	
		ツチガエル					○
昆虫	トンボ	オニヤンマ				○	
	チョウ	ジャコウアゲハ			○		

現在
確認中

※木津川管内河川レンジャー調査については、河川レンジャーである福井波恵氏が実施した自然観察会での記録をもと

※木津川の生き物については『木津川読本：木津川って どんな川？』NPO法人 やましろ里山の会 平成26年発行冊子も参照して作成。

木津川堤防の植物（山城、加茂）

類名	目名	種名	京都府RED	環境省RL	加茂町四季の植物平成19年確認場所	木津川管内河川レンジャー調査	木津川管内河川レンジャー確認場所	
種子植物	マメ科	レリンソウ	絶滅寸前種	現在確認中		○	木津川堤防山城	H19年に発見
		オオバクサフジ	絶滅寸前種			○	木津川堤防加茂御藪	
	ユリ科	アマナ			○法花寺野・美波・御藪	○	木津川堤防加茂御藪	
	キンポウケ科	ユキワリイチゲ	絶滅危惧種		○御藪	○	木津川堤防加茂御藪	
		ニリンソウ			○当尾大畑、森	○	木津川堤防加茂御藪	
	カタバミ科	ミヤマカタバミ			○大野御藪	○	木津川堤防加茂御藪	
	セリ科	ハナウド			○大野	○	木津川堤防加茂御藪	
	ツリフネゾウ科 1年草	キツリフネソウ				○	木津川堤防加茂御藪	
		サトイモ科	ウラシマソウ		○大野御藪	○	木津川堤防加茂御藪	
			準絶滅危惧種			○	木津川堤防加茂御藪	
	ユリ科	キチジョウソウ			○当尾辻 真竹藪	○	木津川堤防加茂御藪	
	ユリ科	ツルボ			加茂各地堤防	○	木津川堤防加茂御藪	
	シソ科	オドリコソウ			○大野御藪	○	木津川堤防加茂御藪	
	ナデシコ	カワラナデシコ			○石部川堤防	○	木津川堤防山城A	
	バラ科多年草	カワラサイコ	絶滅寸前種			○	木津川堤防山城A	
	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	準絶滅危惧種			○	木津川堤防山城A	
	ユリ科	オニユリ			○赤田川堤防	○	木津川堤防山城A	
		ワレモコウ				○	木津川堤防山城A	
	ガガイモ科多年草	スズサイコ	絶滅危惧種		○高田橋、法花寺野の池土手	○	木津川堤防山城B	
		スミレ				○	木津川堤防山城B	
	シソ科	ウツボ草			○山道いたるところ	○	木津川堤防山城B	
	イネ科 多年草	セイバンモロコシ	特定外来種			○	木津川堤防山城 A・B	

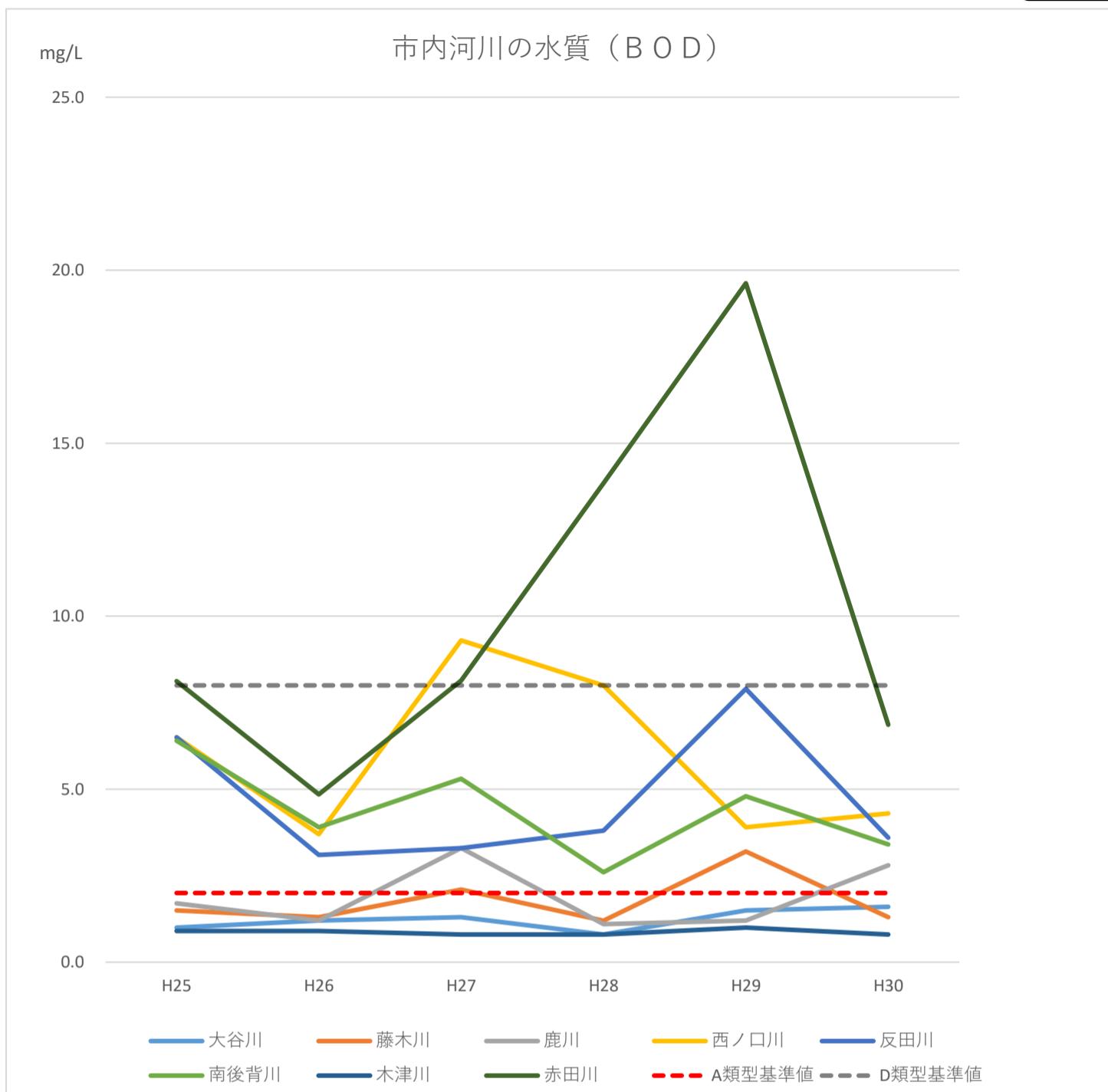
※木津川管内河川レンジャー調査については、河川レンジャーである福井波恵氏が実施した自然観察会での記録をもとに作成。

※加茂町植物については、『加茂町四季の植物』西澤公男著 平成19年発行をもとに作成。

※木津川堤防の植物については『京都木津川の草花たち』NPO法人やましろ里山の会 平成20年発行を参照して作成。

市内河川の水質

資料2-12



①市内河川の水質調査における、平成25年度調査の20河川中の水質ベスト3位・ワースト3位（年2回測定）

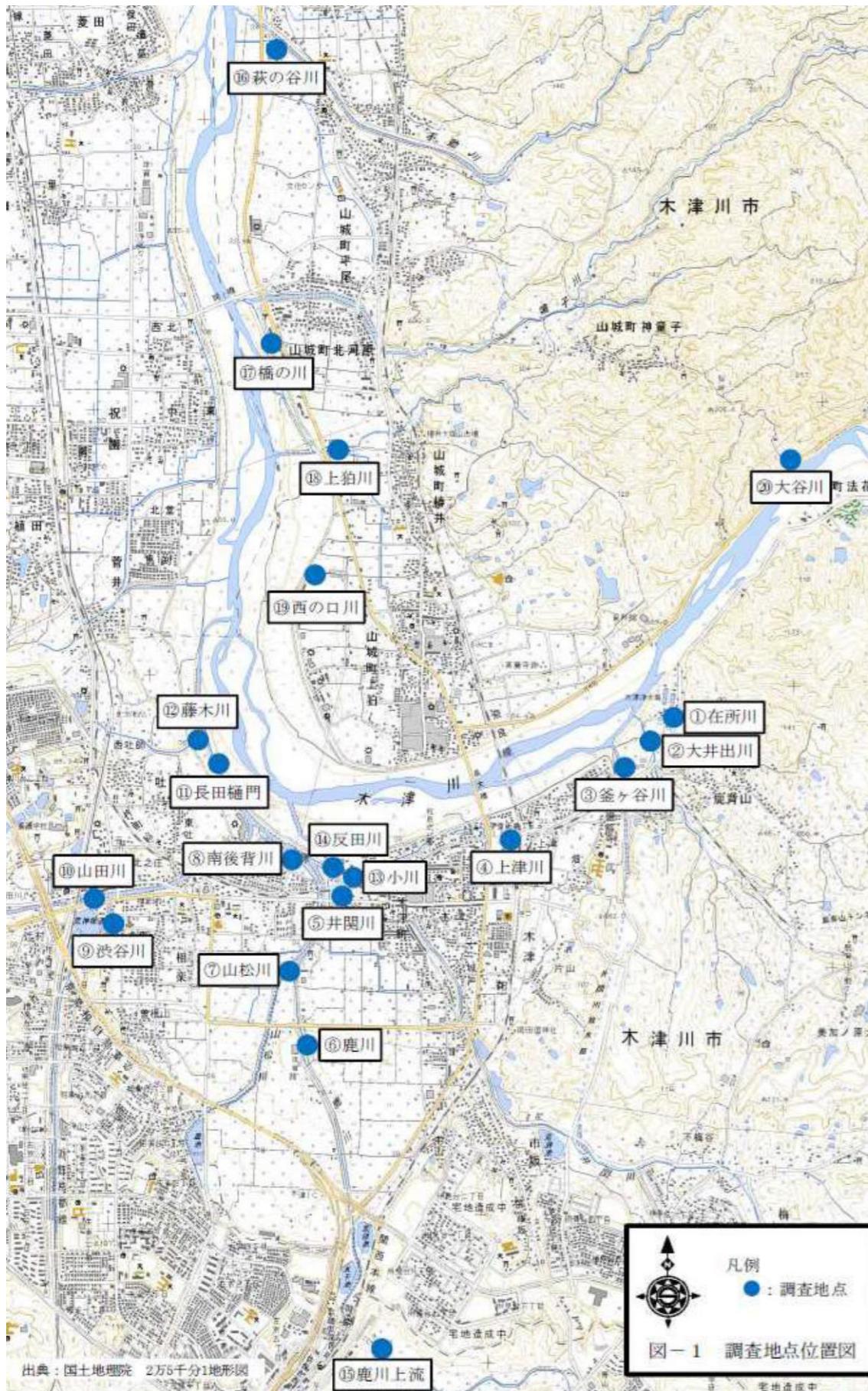
ベスト1位：大谷川、ベスト2位：藤木川、ベスト3位：鹿川

ワースト1位：西ノ口川、ワースト2位：反田川、ワースト3位：南後背川

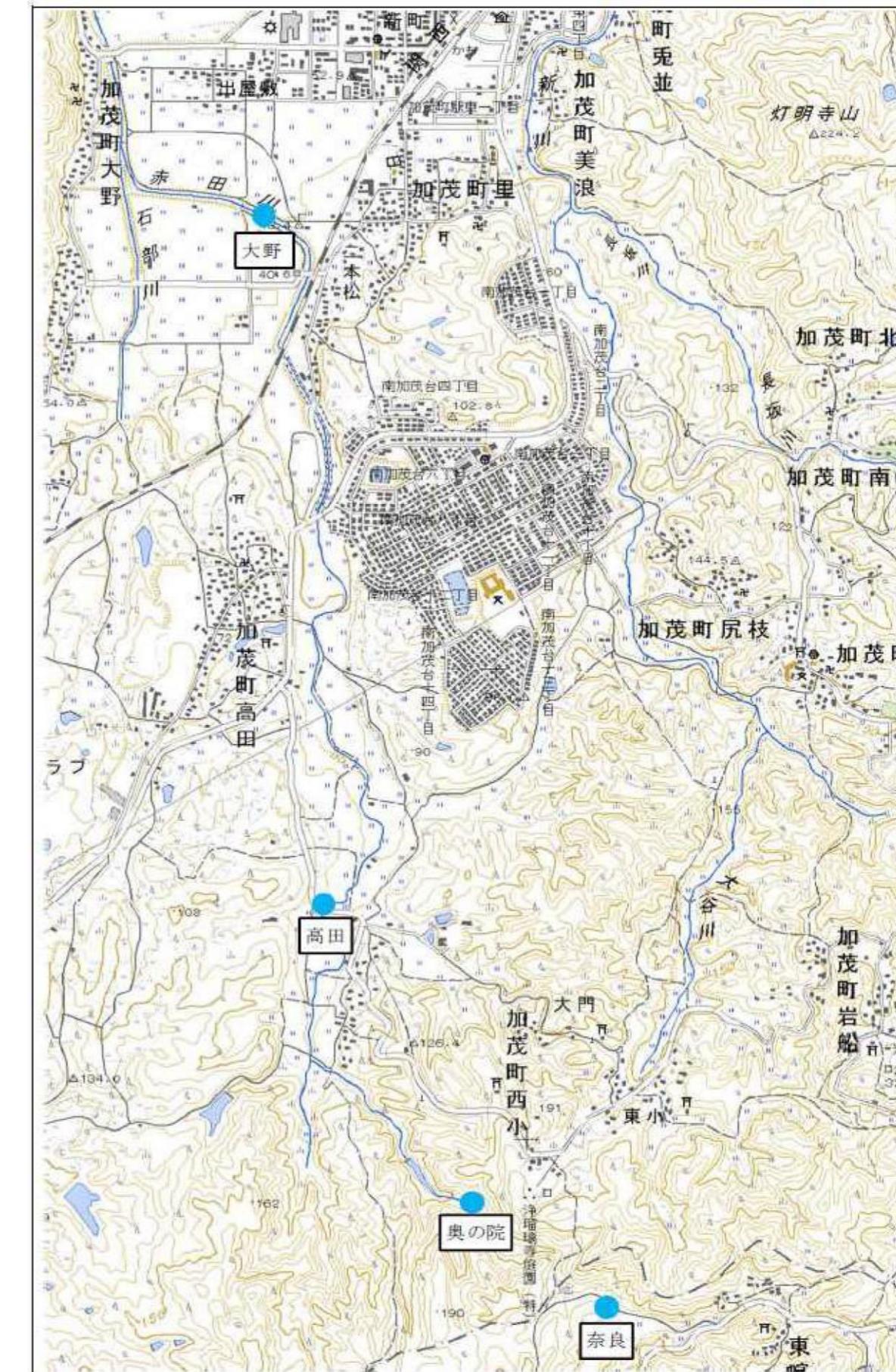
②木津川（国で調査実施。調査地点は恭仁大橋で、毎月1回測定）

③赤田川（①の調査と別で実施。流域5地点で毎月1回測定（平成28年度までは年4回測定））

※市内20河川 水質調査地点 位置図



※赤田川 水質調査5地点 位置図



市内の大気汚染物質測定調査

測定地：木津川市役所

年度	気温(℃)	湿度(%)	二酸化窒素(ppm)	一酸化窒素(ppm)	窒素酸化物(ppm)	二酸化硫黄(ppm)	浮遊粒子状物質(mg/m³)	一酸化炭素(ppm)	光化学オキシダント(ppm)
H20	24.6	81	0.012	0.012	0.024	0.003	0.021	0.4	0.025
H21	20.8	89	0.015	0.007	0.022	0.005	0.020	0.3	0.022
H22	26.3	78	0.017	0.010	0.027	0.007	0.027	0.4	0.025
H23	28.0	67	0.006	0.006	0.013	0.007	0.013	0.2	0.031
H24	27.1	59	0.008	0.003	0.011	0.007	0.016	0.3	0.036
H25	22.5	61	0.010	0.004	0.015	0.004	0.013	0.2	0.029
H26	21.9	60	0.006	0.002	0.008	0.004	0.014	0.3	0.031
H27	21.9	63	0.007	0.004	0.012	0.006	0.012	0.3	0.037
H28	25.3	74	0.004	0.003	0.007	0.005	0.012	0.1	0.018
H29	23.4	77	0.007	0.001	0.008	0.000	0.016	0.1	0.026
H30	19.5	79	0.007	0.004	0.011	0.001	0.015	0.2	0.026
R01	21.6	65	0.005	0.004	0.009	0.004	0.006	0.1	0.018

※H20の測定場所はリサイクル研修ステーション

測定地：曾根山会館

年度	気温(℃)	湿度(%)	二酸化窒素(ppm)	一酸化窒素(ppm)	窒素酸化物(ppm)	二酸化硫黄(ppm)	浮遊粒子状物質(mg/m³)	一酸化炭素(ppm)	光化学オキシダント(ppm)
H20	23.3	83	0.006	0.001	0.007	0.002	0.016	0.3	0.020
H21	20.5	74	0.006	0.003	0.009	0.005	0.023	0.3	0.044
H22	22.3	85	0.012	0.002	0.014	0.004	0.009	0.3	0.033
H23	26.5	77	0.007	0.002	0.008	0.005	0.018	0.1	0.015
H24	25.6	67	0.006	0.003	0.009	0.005	0.016	0.3	0.042
H25	22.8	72	0.008	0.002	0.010	0.003	0.020	0.2	0.046
H26	21.2	67	0.008	0.002	0.010	0.003	0.013	0.2	0.031
H27	18.6	61	0.009	0.003	0.013	0.004	0.010	0.2	0.031
H28	26	80	0.005	0.004	0.008	0.004	0.016	0.1	0.015
H29	18.3	71	0.008	0.003	0.011	0.001	0.009	0.2	0.023
H30	18.7	77	0.007	0.006	0.012	0.001	0.011	0.2	0.031
R01	24.5	69	0.003	0.002	0.005	0.004	0.013	0.1	0.046

測定地：相楽台小学校

年度	気温(℃)	湿度(%)	二酸化窒素(ppm)	一酸化窒素(ppm)	窒素酸化物(ppm)	二酸化硫黄(ppm)	浮遊粒子状物質(mg/m³)	一酸化炭素(ppm)	光化学オキシダント(ppm)
H20	23.9	82	0.005	0.001	0.006	0.002	0.020	0.2	0.026
H21	21.8	71	0.007	0.002	0.009	0.007	0.020	0.2	0.046
H22	24.2	75	0.010	0.002	0.011	0.005	0.011	0.2	0.039
H23	27.6	70	0.004	0.002	0.006	0.005	0.012	0.1	0.022
H24	25.8	63	0.007	0.002	0.009	0.005	0.017	0.3	0.044
H25	23.1	69	0.008	0.002	0.010	0.002	0.022	0.2	0.022
H26	21.7	60	0.006	0.001	0.007	0.004	0.014	0.1	0.032
H27	22.7	58	0.007	0.003	0.01	0.006	0.016	0.2	0.017
H28	24.5	78	0.003	0.002	0.005	0.004	0.015	0.2	0.015
H29	18.8	67	0.007	0.001	0.008	0.000	0.011	0	0.026
H30	19.8	50	0.008	0.003	0.011	0.001	0.014	0.2	0.041
R01	25.6	68	0.007	0.006	0.013	0.004	0.014	0.1	0.026

測定地：木津川台

年度	気温(℃)	湿度(%)	二酸化窒素(ppm)	一酸化窒素(ppm)	窒素酸化物(ppm)	二酸化硫黄(ppm)	浮遊粒子状物質(mg/m³)	一酸化炭素(ppm)
H20	9.4	78	0.018	0.009	0.027	0.003	0.018	0.3
H21	6.2	75	0.019	0.014	0.032	0.003	0.009	0.3
H22	5.9	46	0.013	0.003	0.015	0.003	0.009	0.3
H23	8.0	77	0.027	0.038	0.065	0.004	0.026	0.5
H24	3.8	64	0.017	0.014	0.031	0.003	0.009	0.4
H25	7.1	57	0.007	0.002	0.010	0.004	0.017	0.4
H26	6.3	73	0.017	0.013	0.03	0.002	0.014	0.3
H27	8.7	56	0.007	0.003	0.01	0.004	0.01	0.3
H28	4.6	73	0.009	0.004	0.013	0.001	0.008	0.3
H29	5.2	73	0.022	0.011	0.033	0.001	0.022	0.3
H30	2.9	77	0.014	0.012	0.026	0.001	0.010	0.2
R01	8.1	80	0.030	0.028	0.058	0.004	0.054	0.5

※木津川台では光化学オキシダントの測定を行っていない

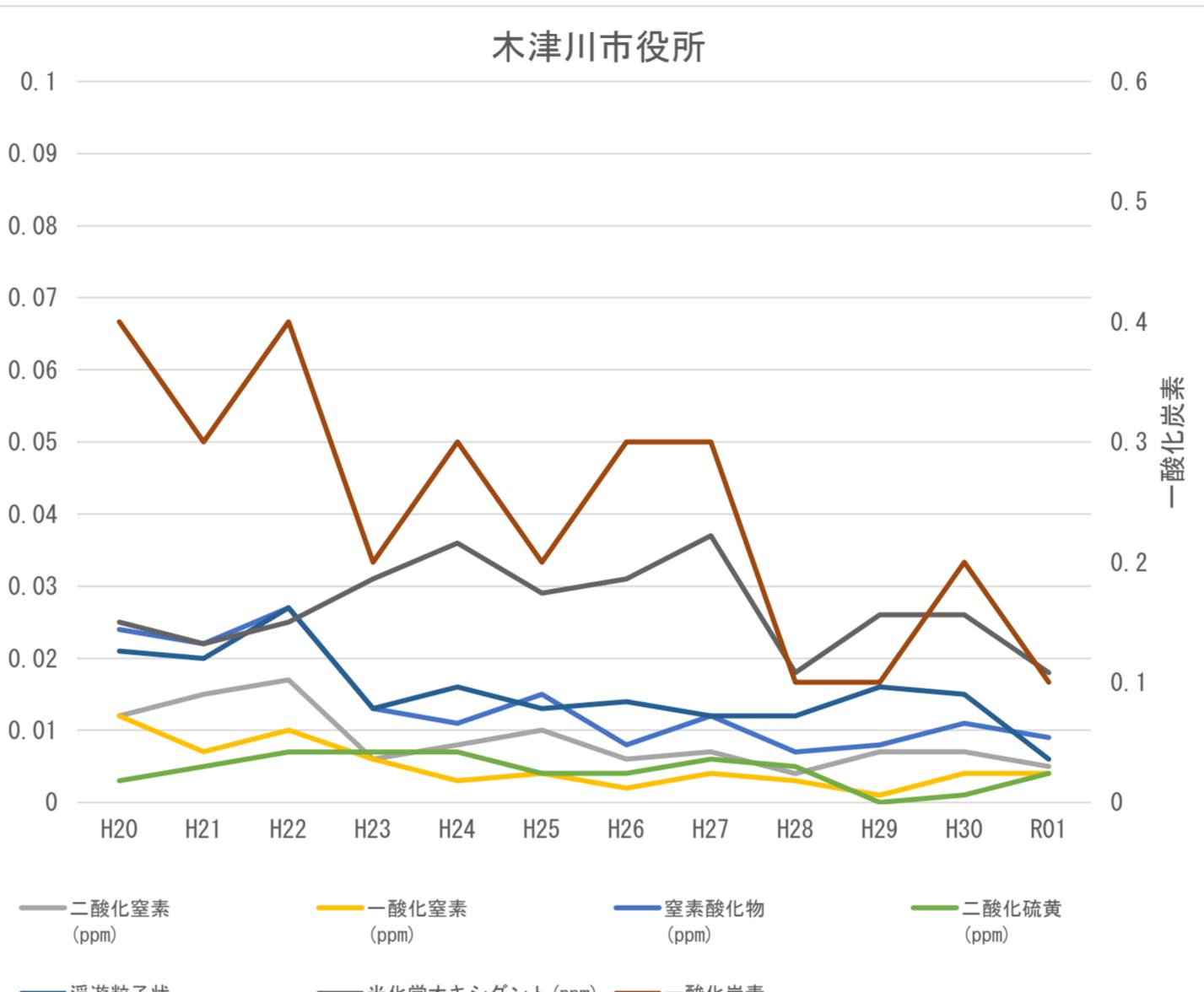
市内4地点で、年1回測定（木津川市役所・曾根山会館・相楽台小学校では9月に測定、木津川台では12月に測定）。過去10年間で環境基準値の超過は見られていない。

環境基準 二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppm～0.06ppm又はそれ以下。

二酸化硫黄：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

一酸化炭素：1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。



騒音・振動調査については、道路の開発などにより環境の変化が懸念される地域で、地域の要請により実施している。道路交通による影響が大きいと考えられる地点で、騒音・振動とともに年1回測定。

騒音調査 (L_{Aeq})

測定地点は相楽台小学校・曾根山会館・木津川台・大仙堂防火水槽（相楽）・南加茂台自治会集会所（第1・3）の6か所。大仙堂防火水槽（相楽）において要請限度の超過が見られる（※虫などの声の可能性が高い）とともに、南加茂台自治会集会所（第1・3）において環境基準の超過が見受けられる。

振動調査 (L₁₀)

測定地点は相楽台小学校・曾根山会館・木津川台・大仙堂防火水槽（相楽）の4か所。
過去10年間で要請限度の超過は見られない。

※参考

要請限度…自動車騒音・振動により道路周辺の生活環境が著しく損なわれると認められるときに市町村長が都道府県公安委員会等に措置を要請することができる限度のこと。

環境基準…大気の汚染、水質の汚濁、土壤の汚染、騒音に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準のこと。（あくまで行政上の目標。振動については環境基準は定められていない）

測定地：相楽台小学校

年度	L _{Aeq} 昼間	L _{Aeq} 夜間	L ₁₀ 昼間	L ₁₀ 夜間
H20	54.9	45.7	27	<25
H21	54.2	43.3	26	<25
H22	55	38	25	<25
H23	55.3	49.6	26	<25
H24	54	44	27	<25
H25	55	46	26	<25
H26	54	44	25	<25
H27	49	44	26	<25
H28	47	42	25	<25
H29	49	40	25	<25
H30	49	40	25	<25
R01	51	41	25	<25

基準値	55	45
-----	----	----

要請限度	70	65	65	60
------	----	----	----	----

測定地：曾根山会館

年度	L _{Aeq} 昼間	L _{Aeq} 夜間	L ₁₀ 昼間	L ₁₀ 夜間
H20	50.8	47.1	28	<25
H21	49.6	43.6	30	<25
H22	50	43	28	<25
H23	49.5	46.0	28	<25
H24	49	42	30	<25
H25	49	43	26	<25
H26	48	42	27	<25
H27	48	41	31	<25
H28	49	45	30	<25
H29	50	46	27	<25
H30	48	44	27	<25
R01	49	48	28	<25

※市街化調整区域のため、基準値無し

測定地：木津川台

年度	L _{Aeq} 昼間	L _{Aeq} 夜間	L ₁₀ 昼間	L ₁₀ 夜間
H20	66.8	61.8	41	32
H21	67.4	62.0	38	28
H22	62	57	32	<25
H23	62	57	34	25
H24	63	57	40	33
H25	63	57	40	29
H26	63	57	38	30
H27	63	59	45	36
H28	63	57	41	30
H29	64	57	42	31
H30	63	58	42	31
R01	63	57	43	33

基準値	70	65
-----	----	----

要請限度	75	70	65	60
------	----	----	----	----

測定地：大仙堂防火水槽

年度	L _{Aeq} 昼間	L _{Aeq} 夜間	L ₁₀ 昼間	L ₁₀ 夜間
H20	52.3	50.7	30	<25
H21	53.9	44.9	32	27
H22	51	46	32	25
H23	54.3	50.9	32	27
H24	55	46	35	30
H25	51	43	33	27
H26	56	45	32	25
H27	55	48	35	27
H28	53	55	35	29
H29	52	50	32	27
H30	55	44	34	26
R01	54	58	35	27

基準値	55	45
-----	----	----

要請限度	65	55	65	60
------	----	----	----	----

測定地：南加茂台第1集会所

年度	L _{Aeq} 昼間	L _{Aeq} 夜間
H20	66.8	58.8
H21	65.5	57.4
H22	66	59
H23	66	57
H24	65	57
H25	66	59
H26	66	58
H27	67	59
H28	66	58
H29	67	57
H30	66	58
R01	66	57

基準値	60	55
-----	----	----

要請限度	70	65
------	----	----

測定地：南加茂台第3集会所

年度	L _{Aeq} 昼間	L _{Aeq} 夜間
H20	64.6	56.2
H21	63.0	55.1
H22	63	55
H23	63	55
H24	62	53
H25	65	57
H26	64	56
H27	65	58
H28	64	56
H29	65	56
H30	64	55
R01	64	55

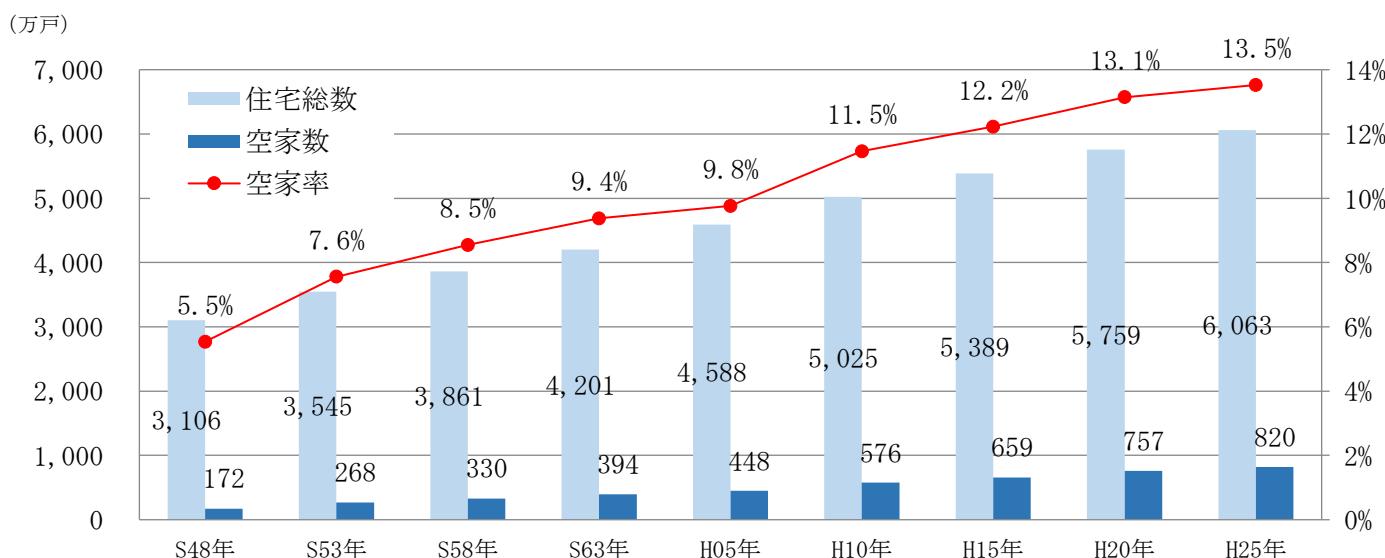
基準値	60	55
-----	----	----

要請限度	70	65
------	----	----

空家の状況

資料 2－15

○全国の空家数及び空家率の推移



資料：住宅・土地統計調査（総務省）

○京都府内の空家数及び空家率の推移



資料：住宅・土地統計調査（総務省）

○木津川市の空家の状況

平成27年度実施の空き家等実態調査の結果より

	空家件数	空家のうち 危険家屋件数
木津	157	22
加茂	186	24
山城	125	21
合計	468	67

※空き家等実態調査について

州見台・梅美台・城山台を除く市内全域の、共同住宅・長屋住宅以外の物件を対象とした調査。

※危険度のランクについて

建物の傾斜・建物外壁の損傷・屋根の状況などを点数化し、その合計点からA～Cの3ランクに分類したもの。
危険家屋とは、この分類でAとBと判定されたもの。

木津川市環境基本計画策定のための 団体・事業者アンケート調査（案）

日頃から市の環境行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、木津川市では、現代社会が抱える地球規模から地域に至るまでの環境問題を少しでも解決するために、今後木津川市として環境保全をどのように推進していくかその指標となる第2次環境基本計画の策定を進めています。

今回の調査は、市内で環境に関してご活躍されている団体の皆様を対象に、「日常感じておられること」や、「実際に取組みをされていること」などをお聞きし、新しい計画づくりに役立てるために実施させていただくものです。

なお、このアンケート調査の回答については、貴団体の代表としてご記入いただきますようお願いします。

また、このアンケート調査結果は、今後の市の環境施策の参考とさせていただきますが、各団体名称を公表することはありません。

ご多忙のところ恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

令和2年9月 木津川市

■記入にあたってのお願い

- ◇回答は、アンケート用紙に直接ご記入ください。
- ◇同封の返信用封筒にて返送いただくか、FAXにて送信いただきますようお願いいたします。
- ◇○月○日（○）までにご回答いただきますようお願いします。

■問合せ及び返送先

木津川市生活環境部まち美化推進課 担当：山上
電話 0774-75-1215（直通）
FAX 0774-72-3900
E-mail machibika@city.kizugawa.lg.jp

問1 貴団体のことについておたずねします。

次の各事項に記入または該当するものに○印をお願いします。

団 体 名 (回答者氏名)	()
会 員 数	人 内訳(正会員 人、準会員 人 その他 人)
主な活動場所	市内全域 ・ 市内特定の区域() その他()
活動分野 (複数回答可)	環境美化 ・ 自然保護 ・ 野生生物保護 森林保全 ・ 水質保全 ・ 河川保全 ごみ減量化 ・ 省エネルギー ・ 再生エネルギー 生きがいづくり ・ 健康推進 ・ 社会福祉 地域活性化 ・ 農業振興 ・ 観光振興 人材育成 ・ その他()
活動内容 (複数回答可)	普及啓発 ・ 体験学習 ・ 調査研究 社会貢献 ・ 交流促進 ・ 地域ビジネス その他()
活動年数	1年～5年 ・ 6年～10年 ・ 10年～15年 16年～20年 ・ 21年～30年 ・ 31年以上

問2 木津川市の環境及び環境への取組は、10年くらい前と比較してどう変わりましたか。

下の表の各項目について感じることを、1~5のうちからそれぞれ1つ選び、○印をお願いします。

分類	No	項目	大変よくなつた	ややよくなつた	変わらない	やや悪くなつた	大変悪くなつた
地球	①	省エネの推進など地球温暖化対策の状況	1	2	3	4	5
	②	再生エネルギー利用推進の状況	1	2	3	4	5
環境	③	気象の変化（台風、大雨、酷暑等）への適応策の取組	1	2	3	4	5
	④	山林や緑の豊かさ	1	2	3	4	5
自然	⑤	河川など水辺の豊かさ	1	2	3	4	5
	⑥	生き物の種類の多さ	1	2	3	4	5
文化	⑦	農地など田園環境の保全	1	2	3	4	5
	⑧	自然とのふれあう機会の多さ	1	2	3	4	5
環境	⑨	歴史・文化遺産の保存	1	2	3	4	5
	⑩	歴史的自然の保全	1	2	3	4	5
循環型	⑪	ごみの適正な処理(分別の徹底他)	1	2	3	4	5
	⑫	ごみの再利用・再資源化の推進	1	2	3	4	5
社会	⑬	ごみの排出量の削減推進（2R活動）	1	2	3	4	5
	⑭	まちのきれいさ	1	2	3	4	5
生活	⑮	空気のきれいさ	1	2	3	4	5
	⑯	水のきれいさ	1	2	3	4	5
環境	⑰	静けさ(騒音・振動のなさ)	1	2	3	4	5
	⑱	環境学習への参加機会の多さ	1	2	3	4	5
パートナーシップ	⑲	環境保全や美化活動の活発さ	1	2	3	4	5
	⑳	イベントへの参加や情報入手のしやすさ	1	2	3	4	5
	㉑	行政と市民団体・事業者間の連絡・連携の推進	1	2	3	4	5

その他、10年くらい前からの環境の変化で気づいたことがあればお書きください。

--

問3 団体として取り組まれているものがあれば教えてください。

1~5のうちからそれぞれ1つ選び、○印をお願いします。

分類	No	項目	いつも取り組んでいる	たまに取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない	以前は取り組んでいたが、今は取り組んでいない
地球環境	①	省エネ活動(クールビズやウォームビズなどを含む)	1	2	3	4	5
	②	節水の活動(雨水タンクや残り水の利用などを含む)	1	2	3	4	5
	③	再生可能エネルギーの推進活動	1	2	3	4	5
	④	熱中症予防、防災意識の向上	1	2	3	4	5
自然環境	⑤	森林や田畠を守るための保全活動	1	2	3	4	5
	⑥	動物や植物などの観察(写真含む)や保護活動	1	2	3	4	5
	⑦	地域で花や木を植える緑化活動	1	2	3	4	5
文化環境	⑧	文化財などの保護活動	1	2	3	4	5
	⑨	地域、自治会などでの環境美化活動	1	2	3	4	5
	⑩	アダプトプログラム(環境美化活動の支援制度)への参加	1	2	3	4	5
	⑪	環境に関するイベントなどへの参加や活動	1	2	3	4	5
生活環境	⑫	食品ロス削減などごみ減量化の推進	1	2	3	4	5
	⑬	不用品のバーやフリーマーケット活動	1	2	3	4	5
	⑭	ごみの再資源化の推進	1	2	3	4	5
	⑮	古紙類などの集団回収(再資源化)活動	1	2	3	4	5

問4 「問3」で取り組んでいるとお答えいただいた活動を今後も続けていくために、貴団体として抱える課題がありますか？ある場合は、どんな課題であるかご記入下さい。

問5 後世に残したい木津川市の環境について一つご記入ください。

該当するものに○印をし、具体的な内容を記入ください。

分野	地球環境 ・ 自然環境 ・ 文化環境 ・ 生活環境
具体的な内容	

問6 他市町村では、行政と環境団体が協働して環境政策を実行していくにあたり、行政と団体や事業者が「環境パートナーシップ会議」を設立しているケースもあります。木津川市でこのような組織を設立することが、今後の環境保全活動推進に有効であると思いますか。下記から1つ選び、□をお願いします。

有効である 有効でない どちらともいえない

問7 木津川市で「環境パートナーシップ会議」を設立するとした場合、貴団体はどのように協力いただけますか？下記から1つ選び、□をお願いします。また、協力いただける場合は具体的な内容もお書き下さい。

協力する 部分的に協力できる 協力できない
その他（ ）

具体的な内容	
--------	--

問8 市民と行政とが協力して今後も環境活動を行う場合、行政側にどんなことを期待しますか？下記から選び、□をお願いします。（複数回答可）

広報周知 会場用意 活動団体間のコーディネート
資金・補助金 その他（ ）

問9 その他、ご意見等ありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

環境基本計画に係るアンケート送付団体リスト（案）

計 74 団体

■木津川市関係団体及び環境に関する取組みを実施されている団体（36 団体）

	団体名称
1	木津川市廃棄物減量等推進員の会
2	木津川市こどもエコクラブサポーターの会
3	木津川を美しくする会木津川市支部
4	木津川市商工会
5	木津川市観光協会
6	木津川市公園都市緑化協会
7	木津川市シルバー人材センター
8	NPO 法人ふるさと案内かも
9	山城町ふるさと案内人の会
10	木津の文化財と緑を守る会
11	椿井大塚山古墳を守る会
12	加茂町文化財愛護会
13	森林ボランティア サン・フォレスター
14	木津川管内河川レンジャー
15	エコラボ 2014
16	木津川おもちや病院
17	木津川市パソコンニューメディアサロン
18	キノコもクラブ
19	木津川市青少年育成委員会
20	府立木津高等学校企画情報課
21	木津川市地域農業再生協議会
22	山城森林組合
23	瓶原まちづくり協議会
24	木津川市食生活改善推進員協議会
25	木津川市老人クラブ連絡協議会
26	木津川市女性の会
27	やましろ環境教育ネットワーク
28	こそだてママネット
29	鹿背山元気プロジェクト
30	鹿背山元気倶楽部
31	鹿背山の柿を育てるネットワーク

32	NPO 法人 京都発・竹・流域ネットト
33	みもろつくネイチャーファミリーかせ山
34	kichi_lab_art
35	こども食堂@高の原
36	NPO 法人かもめ (加茂女)

■アダプト登録団体のうち、実質活動人数が 10 人以上で、概ね年 2 回以上活動いただいている団体
(計 23 団体)

	団 体 名 称
1	株式会社 エクゼティ京都
2	木津小学校 きつづ CC 隊
3	小寺町白老会
4	川原町白寿会
5	木津駅前クリーンの会
6	なごみ会
7	オムロン株式会社 京阪奈イノベーションセンター
8	クリーンきら星
9	くにみ緑化クラブ
10	大佛鉄道研究会
11	梅美台小学校
12	三丁目イキイキライフ ガーデニングクラブ
13	城山台小学校
14	ハハソハ
15	東町寿会
16	当尾の郷会館管理運営委員会
17	塚穴公園を美しくする会
18	三重中央開発株式会社
19	あじさいを育てる会
20	真如苑
21	うずらケッコークラブ
22	山城中学校
23	上狛川を美しくする会

■木津川市ボランティアセンター登録で環境関連の活動を明記している団体（計 9 団体）

団 体 名 称	
1	ちよみボラ
2	子どもと教育を考える会・らららもか
3	山城の國和太鼓鼓粹
4	お助け隊 西木津川台
5	日本ボーイスカウトきづがわ第1団 育成会
6	子ども体験学習サポーター ぐんぐんきっづ
7	くに18
8	竹工房 游
9	つかあな共助会

■木津川市内で登録していて、子育て・環境保全を明記している NPO 法人（計 6 団体）

団 体 名 称	
1	やましろきっづサイエンス
2	子育てサポート フレーフレークラブ
3	インクル・かも
4	小谷元気ネット協議会
5	京都未来環境ネットワーク
6	京都南部木津雇用促進協議会

以上

「木津川市環境基本計画」策定のための アンケート調査（案）

木津川市は、木津川市の環境を守るために「環境基本計画」を作っていますが、令和2年度には、今後10年間についての「第2次環境基本計画」をつくることになりました。

「環境基本計画」とは、

- ・里山や川・田畠・公園などたくさんの生き物が住んでいる自然豊かな環境を守ること
 - ・私たちが安心・安全に暮らせるように、水・空気がきれいでごみのないまちをつくること
 - ・地球全体の問題である地球温暖化（地球が暖かくなる問題）などの環境問題を解決すること
- を目的に、私たちが日々できることを考え実行するための計画です。

みなさんが今、「木津川市の環境」について考えていることを、このアンケートでお聞かせください。

令和2年〇〇月 木津川市

〈回答についてのお願い〉

○しめきり………〇月〇日(〇)までにお答えください。

○提出の仕方……… 答えを記入したアンケート用紙は、〇月〇日(〇)までに担任の先生に渡してください。

○目的………このアンケート結果は、「環境基本計画」のための資料として役立たせていただくもので、それ以外での使用はしません。
ご協力よろしくお願ひします。

問い合わせ先 〈木津川市 まち美化推進課〉 電話75-1215

答えは、当てはまる番号を選んで、番号を○で囲んで下さい。

問1 あなたご自身のことについてお聞きします。

(1) あなたの通っている学校はどこですか。番号を選んで、○で囲んでください。

木津小・相楽小・高の原小・木津川台小・相楽台小・州見台小
梅美台小・城山台小・加茂小・恭仁小・南加茂台小・上狛小・棚倉小

問2 あなたは家の周りの緑・自然は多いと思いますか。1つ選んで下さい。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 多い | 4. どちらかといえば少ない |
| 2. どちらかといえば多い | 5. 少ない |
| 3. ふつう | |

問3 家の中と外のどちらで遊ぶのが好きですか。

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. 家の外で遊ぶ | 3. 家の中でも外でも遊ぶのが好き |
| 2. 家の中で遊ぶ | 4. どちらでもない |

問4 「家の外で遊ぶ」としたら、どこで遊びますか？

次のなかからあてはまるものを全て選んで下さい。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 山(里山) | 4. 学校や公園・家の回り |
| 2. 川や池などの水辺 | 5. 外で遊ぶことはない |
| 3. 神社やお寺 | 6. その他() |

問5 あなたは昨年に、学校の授業や行事以外で、次のことをどのくらいしましたか。

それぞれの活動について1つだけ選んで下さい。

	活動			
1	山登りやハイキングをする	何度もした	少しした	しなかった
2	水泳やボートなどに乗る	何度もした	少しした	しなかった
3	牧場などで動物とふれあう	何度もした	少しした	しなかった

4	やがい しょくじ と 野外での食事やテントで泊まる	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
5	ゆき なか かつどう スキーなどの雪の中の活動	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
6	こんちゅう みずべ せいぶつ つか 昆虫や水辺の生物を捕まえる	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
7	しょくぶつ がんせき かんさつ 植物、岩石の観察をする	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
8	バードウォッチング (鳥の観察) かんさつ	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
9	ほし くも かんさつ 星や雲の観察	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
10	さんさい さいしゅ 山菜、キノコなどを採取する	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
11	さかな かい 魚や貝などをとる	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
12	花や木を育てる、庭掃除をする にわそうじ	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた
13	こめ やさしい そだ しゅうかく 米、野菜などを育て、収穫する	なんど 何度もした	すこ 少しした	しなかつた

問6 夏休み・冬休みにした遊びで、どんな遊びが好きですか？

好きな遊び（いくつでもOK）	
夏休み	
冬休み	

問7 木津川市の自然で、特に「守りたい自然」は何ですか。
次の中からあてはまるものを全て選んで下さい。

1. 山（里山）の自然	4. 神社やお寺などの緑
2. 川や池などの水辺	5. 学校や公園・家の回りの緑
3. 田んぼや畑	6. その他 ()

次のページに続く

問8 木津川市にいる生き物で、どんな生き物を知っていますか。
知っているものに○をつけて、生き物の名前も書いてください。

1. 山 (里山) の生き物

2. 川など水辺の生き物

3. 田んぼや畑などの生き物

4. 神社やお寺などの生き物

5. 学校や公園・家の回りの生き物

6. その他 (あれば)

問9 あなたは環境を守ることは大事だと思いますか。

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問10 問9で「環境を守ることは大事だと思います」と答えた方にお聞きします。

あなたは環境の大切さを誰から学びましたか。

次の中からあてはまるものを全て選んで下さい。

1. 学校の先生

4. 友達

2. 家族

5. その他 ()

3. 地域団体の人・地域の人

木津川市の未来についてお聞きします。

今から30年後の2050年、みなさんが大人になったときの木津川市を想像してみてください。

問11 木津川市にどんな自然があるといいと思いますか？木津川市の山、川、小川、里山、田んぼや畑、神社など思い浮かべて、文章か絵で書いてみてください。

問12 未来の木津川市がどんな町だと住みやすいと思いますか？自然のこと以外で、想像して文章か絵で書いてみてください。

ご協力ありがとうございました。

骨子案に関する意見照会の結果とりまとめ

令和2年6月26日付けで委員の皆様に照会させていただきました、第2次木津川市環境基本計画（骨子案）に関するご意見につきまして、下記のとおり、とりまとめいたしました。

○計画の全体構成について

- ①木津川市の率先行動の項目が、「第3章2. 分野毎の取り組み」に記載する「行政の役割」の中でもよいが、施策とは別項目として記載してもよいと思う。
- ②もしこの計画を、地球温暖化対策実行計画区域施策編を兼ねる位置づけにするならば、該当部分をわかりやすくする章立てが必要ではないか。

※事務局より：本計画を地球温暖化対策実行計画区域施策編を兼ねる位置づけにはしません。

- ③「第4章計画の進め方」に「3. 計画に見直し」を追記する。

○「第1章1. 計画の背景」について

- ①低炭素社会の形成（主に分野1に対応）とともに、循環型社会の形成（主に分野3に対応）、自然共生社会の形成（主に分野2に対応）が主要環境施策になっているかと思うので、バランス良く記載するのがよいと思う。（第5次環境基本計画では地域循環共生圏の形成が前面に出てきているが、これはSDGsの文脈にあてはまるかと思う。）
- ②身近な話題もコラムに入れることで市民の関心を引くのではないか。例えば、平成30年のごみ袋有料化や分別方法の変更などによる市民の協力がまちの美化、環境整備に必要であったこと、引き続き市民の環境整備の意識が不可欠であることを背景にも入れておいたらどうか。
さらに現在、木津川市ではどのような問題があるか。市のシンボルでもある木津川の水は安全か、生態系の変化は、など市民にとって関心のあることを入れてはどうか。
- ③鹿背山元気プロジェクトの西念寺田辺住職さんから昭和40年代里山荒廃による水害のお話を聞かせてもらうことがあった。このような体験に基づく声を入れてほしい。
木津川市には、ほんの数十年前にはどこにでもいたメダカやカブトムシがまだ普通に生息している。将来にも残したい自然の姿も表せるとよい。
- ④地球温暖化と私たちのまちの気候変動を短絡的に繋げるのは、実際のまちレベルではヒートアイランド現象によるところが大きいと思うので、注意が必要である。また、地球温暖化に関しては異論を唱える研究者も多いことから、断定的な文章表現は避けるべきである。
- ⑤京都府知事による2050年温室効果ガス排出実質ゼロ宣言や、京都市・与謝野町・宮津市等によるゼロ・カーボンシティ宣言、これを取りまとめる環境省のゼロ・カーボンシティマップ等についても言及することを提案したい。また、書きぶりとして、SDGsやパリ協定を個別に扱うのではなく、持続可能な開発の概念のもとでの計画づくりが必要であることを示してほしい。

⑥計画策定に至った経緯や策定の必要性を追記するとともに、「最近の状況の変化（新型コロナの影響等）によるライフスタイルの変化」を追記する。

○「第1章3. 計画期間」について

- ①計画期間は10年（中間評価5年）とあるが、その期間設定の根拠が必要である。SDGsに併せた、あるいは行政上の区切りかも知れないが、計画を進め、その効果を見るうえで10年という長い期間がいかに必要か分かると思う。
- ②計画期間10年はよいと思うが、中間見直しが5年でよいか？実務を考えるとそれぐらいだと思うが、世の中が早いので新たな問題、考え方、指標などが出てきたときにできるだけタイムリーに反映できるように幅を持たせて3年～5年目途にしてはどうか。
- ③5年後の中間見直しまでにも進捗状況が分かるようにするのがよい。

○「第2章1. まちの将来像」について

- ①少子高齢化時代に「子供の笑顔が未来に続く～」では少し高齢者が忘れられている印象である。全ての人の笑顔を未来に伝えるようなメッセージが良いかと思う。
- （例）「次世代に笑顔を届けるまちづくり 幸せ環境都市 木津川」
「エコから始まる笑顔の暮らし ハピネス 木津川」
「未来へつなげる笑顔の街 エコライフ 木津川」
- ②「脱炭素で」は無理につける必要はないのではないか。炭素問題と関係のない水質などの環境問題もあり、「脱炭素社会」という言葉が市民権を得つつあるが、化石由来の炭素と植物由来の炭素は区別すべきで、「脱炭素」とはかなり粗っぽい言葉に思える。
「持続可能である」ことがこれから世界の大きな価値基準となることから、「子どもたちの未来」を語るなら「持続可能」で広く捉えるほうがよい。
- ③脱炭素を特記することが気になる。

○「第2章2. 基本となる考え方」について

- ①SDGsと地域循環共生圏を併記してもよいかと思う。
「(2) SDGsの考え方の活用」における「市民・事業者との連携」と、「(3)パートナーシップと人材育成」における「パートナーシップ」は書き分けるのか。
- ②(1)から(3)は行政サイドからの考え方であるが、ボトムアップ的思考も強調できればよいと思う。
例えば、環境問題は子どもたち、高齢者、妊婦などそれぞれの立場によって、視点や課題が異なる可能性がある。
さらに市民1人1人が自分の問題として、行政と共有できる取組が必要である。例えば、上記の様なご

みの問題、町内清掃、あるいは学校での取組（子どもたちへの環境問題の教育など）など。コロナウイルスの感染対策ではっきりした様に、個々人の小さな意識や努力が、環境を整え、大きな成果へと繋がる。行政主導も大切であるが、それでは計画期間10年も長続きしない。市民の声や現場の意見を取り入れるやり方も大切にするひとつに加えられたらよいと思う。

③「市民が自分の問題として捉えられる計画」とは、とても意欲的な目標である。そうなるためにも、読みやすいものでなくてはいけない。

SDGsの考え方をどう活用して、社会・経済・環境を結びつけることが同問題の解決に必要になるのか丁寧に論じる必要がある。

④国第5次環境基本計画がうたう「パラダイムシフト」の観点が弱いように見える。「(1) 市民に身近であること」は重要であるが、「計画を読んで自分自身の問題と捉える」ことが最前面にでることに違和感を覚える。

パラダイムシフトを引き起こす計画であること、この根本的な考え方は持続可能な開発でありここにSDGsが活用できること、SDGsにも書き込まれているとおり、パートナーシップが重要であること、そしてこれを支える市民理解が重要であること、という順番にするのはどうか。

⑤「(3) パートナーシップと人材育成」に「関係者間のコーディネートのあり方」を追記する。

○「第2章3. 計画の対象範囲」について

①個別計画なし(必要性あり)は、何を想定されているのか。

②「(3) パートナーシップと人材育成」の「パートナーシップ」と、4分野ごとの各項目にある「パートナーシップ」は同じものか。各項目で挙げられるものなら、記載は不要ではないか。ここでとりあげられているのは「パートナーシップのあり方」みたいなものか？そもそも「パートナーシップ」の定義は？「連携」ではダメか？

③地球環境については木津川市の計画との関係性が捉えにくいため、地球規模、日本国規模、京都府規模までを含めて、市の計画の寄与について述べてはどうか。

④個別計画について、名称を列記する。また、個別計画の必要性がないものについては、数値目標は不要である。

○「第3章1. この計画の取り組みのあらまし」について

①木津川市の率先行動の項目が、「第3章2. 分野毎の取り組み」に記載する「行政の役割」の中でもよいが、施策とは別項目としてあってもよいのではと思う。

②市民にわかりやすい明確な目標設定したうえで、計画に取り組むべきかと思う。例えば、「地球環境大賞」を目指すのはどうか。この賞は、地球温暖化防止や循環型社会の実現に寄与する新技術・新製品の開発、環境保全活動・事業の促進や、21世紀の社会システムの探求、地球環境に対する保全意識の一端の向上を目的としている。平成10年からは自治体も顕彰対象になったが、ほとんどは企業や学校

などで、自治体の受賞はなさそうである。話題性もあり、市民からの協力も得られやすいかと思う。
③SDGsは既存の対策を分類・整理するものではなく、統合的解決を図るためのツールであるので、今後、表記の方法には留意が必要である。

○第3章「2. 分野毎の取り組み」について

①個別計画なし(必要性あり)は、何を想定されているのか。

木津川市の率先行動の項目が、「第3章2. 分野毎の取り組み」に記載する「行政の役割」の中でもよいが、施策とは別項目としてあってもよいのではと思う。

1つの指標で分野全体を見るよりも難しいと思うので、目標をもつ指標とともにモニタリング指標をいくつか設定してはどうか。

②きれいに表として整理されているが、各分野が繋がって取り組む印象が薄いと感じる。また、実態がイメージできなかつたり、具体性に乏しい項目も多い。

例えば、「空地の適正管理」は具体的にどうするのか?「事業活動から出る廃棄物の削減」の方法は? 絵に描いた餅のまま終わってしまう取り組みもあるのではと心配である。市民による町内清掃、また小中学生による校区の公園や里山の清掃など、住民が参加するような計画が少ないとと思う。市民への啓蒙も必要な項目である。

③「(1) 地球環境」について、気候変動対策の方向性として、CO₂の排出削減や吸収に関することも念頭にすべきと思う。(木津川市には森林も多いことから、森林吸収原対策も特筆してはどうか。)

数値目標に関しては、世界レベル、国レベル、府レベルでの目標がちなみにどれだけかも比較として記述すべきではと思う。

市民・事業者・関係機関とのパートナーシップは、府レベルだけでなく、国、世界、NPOなど幅広にリサーチすべきと思う。

④「(2) 自然・文化環境」について、方向性に里山等の保全を入れるのであれば、市民・事業者・関係機関とのパートナーシップでは、里山保全を行っている団体にも目を向けるべきではないか。

また、環境保全の指標として、里山林の整備面積とか、活動人数とかも指標になるのではないか。

⑤「(4) パートナーシップ・人材育成」について、方向性・考え方リーダーシップ、コーディネーションができる次世代の人材の育成が入れられれば良い。市民・事業者・関係機関とのパートナーシップは、市内の団体だけでなく、府域、全国レベルで活動している団体も幅広にリサーチすべき。

数値目標としては、人材の育成人数や築いたパートナーシップの関係数(関わる団体数)などを挙げたらどうか。

⑥気候変動対策に関しては、2050年までにCO₂(等)の排出をゼロとする長期目標を明示し、これに基づく2030年目標を盛り込むのが良いと思う。例えば、環境省が本庁舎等において2025年までに再エネ由来100%・CO₂ゼロ電力の調達を宣言していることを踏まえ、率先実行として同様の目標値を盛り込み、特に学校教育において優先的にこれを実現すること、またその電力を地域の電力で貯うことを計画に盛り込むことを提案する(長岡京市や福知山市の事例参照)。

また、市が RE Action に参加するとともに、市内事業所の RE Action 等の参加数を KPI に設定してはどうか。

- ⑦「(1) 地球環境」に「広域的な環境問題への対応」を、また市の役割として「旗振り役」を追記する。
「(2) 自然・文化環境」に市民の役割として「保全活動への協力・参加」「みんなで守ろうとする意識」を追記する。
「(3) 生活環境①3Rの推進」の施策に「こどもエコクラブ」「レジ袋有料化」を追記する。また「②生活環境の保全」の方向性に「遊休地の活用」を追記する。
「(4) パートナーシップ」の市の役割として「コーディネート機能」を追記する。

○「第4章 計画の進め方について

- ①環境審議会での報告も大切であるが、市民にも新聞などでこの計画の進捗状況などについてできるだけ知ってもらい、理解や賛同を得ることがさらに大切である。SNSなどを通じて報告してはどうか。
②市内部の推進体制だけでなく、関係機関も含めた推進体制を検討されてはどうか。
③温室効果ガス排出量は推計で行うしかないので、独自の施策が反映されない。いくつかの KPI を設定しておく必要があるので。府内体制について「関係部局間で情報共有を図りながら、既存の府内会議等に定期報告」とされているが、これで充分なのか。環境基本計画の内容は、商工関係、交通関係、教育関係等の各部局がそれぞれの本業の中で取り組まねば実現できないものだと思う。これを本当に実現できる府内推進体制であるかどうか、あらためて検討いただけたら幸いである。
④「1. 計画の推進体制」に「市役所各部局の役割分担」を追記する。
「2. 計画の進捗管理」に「P D C A サイクルによる進捗管理」を追記する。

○「資料編（計画策定の経緯・参考資料等）」について

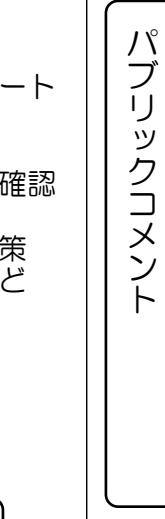
- ①木津川市は2011年より環境省の調査エコチルの対象地域になっており、2027年まで続く。木津川市の参加者は約700名で、そのデータは将来の木津川市の環境整備のための貴重な資料となる。
②場合によっては、「計画の背景」に書ききれないものは資料編に回して、第1章を読みやすくするとよい。
③国や府の計画（概要を示した資料）を追記する。

○その他のご意見

- ①具体的な数値目標を設定することが大切である。
②「人材育成」について、子どもたちの環境教育は、エコクラブだけでは支えきれないため、学校や他の子育て支援団体の力が必要である。学校や様々な子育て支援団体と連携し、それぞれに取り組んでもらえる仕組みを整えていけるとよいと思う。

○第2次木津川市環境基本計画策定スケジュール

資料5

年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度						
月	2019年 11月20日	6~7月	8月18日	9~10月	11~12月	1月	2021年 2~3月	
審議会	第1回 • 審議会運営 • 現行計画の進捗 • 策定方針・全体構成の意見交換 • 策定スケジュール	骨子案に対する意見照会 	第2回 • ミニセミナー（SDGsと地球温暖化） • 意見照会の結果 • 市の現状と課題 • 計画のアウトライン • 団体・事業者ヒアリング、小学生アンケートの内容	団体・事業者ヒアリング、小学生アンケート 	第3回 • ヒアリング・アンケートの結果 • 市の環境未来像等の確認 • 環境分野毎の重点施策など	パブリックコメント 	第4回 • パブリックコメントの結果 • 今後の取組 • 今後の進捗管理など	答申 
審議内容			⇒ 素案	⇒ 中間案	⇒ 政策会議	⇒ 最終案	⇒ 政策会議 計画策定	

※令和元年度第2回審議会（令和2年3月5日開催予定）の延期により、今後のスケジュールを見直したものです。

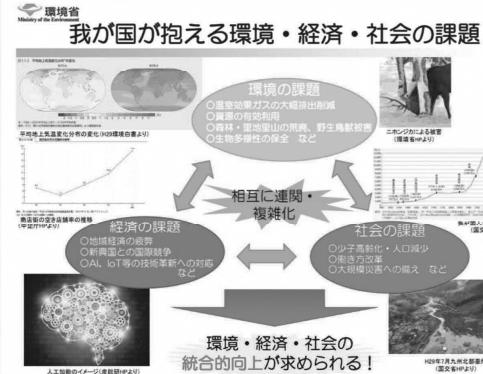
(参考)木津川市環境基本条例(平成19年木津川市条例第149号)抜粋

(環境基本計画の策定) 第8条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全及び創造に関する基本的な計画（以下「環境基本計画」という。）を策定しなければならない。
2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。
(1) 環境の保全及び創造に関する目標及び施策の大綱
(2) 前号に掲げるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策を推進するために必要な事項
3 市長は、環境基本計画の策定に当たっては、あらかじめ市民等の意見を反映するために必要な措置を講ずるとともに、木津川市環境審議会（以下「環境審議会」という。）の意見を聴かなければならない。
4 市長は、環境基本計画を策定したときは、速やかにこれを公表しなければならない。
5 前2項の規定は、環境基本計画の変更について準用する。

SDGsと地球温暖化

京都府地球温暖化防止活動推進センター
副センター長 木原浩貴

第五次環境基本計画



「パリ協定」と「SDGs」に基づくパラダイムシフト



木原について



■学歴

- 2000年 立命館大学産業社会学部卒業（学士：社会学）
- 2015年 龍谷大学政策学研究科修士課程修了（修士：政策学）
- 2020年 京都府立大学生命環境科学研究科博士後期課程修了（環境心理行動研究室）（博士：学術）

■職歴

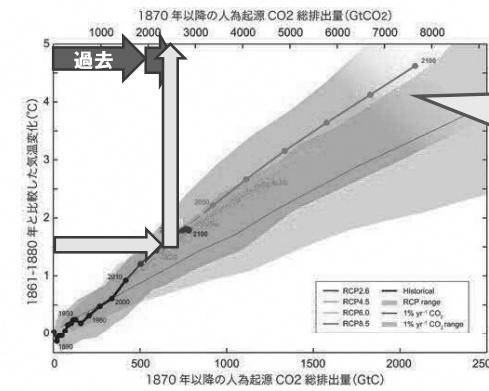
- 2000～2003年 気候ネットワーク職員
- 2003～ 京都府地球温暖化防止活動推進センター
(2011年～事務局長 2020年7月～副センター長)
- 2017～ 龍谷大学非常勤講師・立命館大学授業担当講師
- 2018～ たんたんエナジー株式会社（代表取締役）



気候変動を止めるためには



様々な種類の証拠から得られた
世界のCO₂排出累積量の関数としての世界の平均気温上昇量



CO₂の累積排出量と気温上昇は比例する。

CO₂を始めとする温室効果ガスの排出量をゼロにしないと、気温上昇は止められない。

出典)IPCC第5次評価報告書 WGI Figure SPM.10



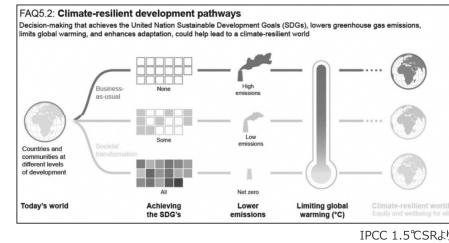
世界の脱炭素化への動き



5



2015年、パリ協定により、世界は「温室効果ガス排出実質ゼロ」に合意。



「脱炭素」は、これから地域づくり・企業活動の最低限の基盤に

日本の脱炭素化への動き



6



京都府ウェブサイトより

京都府の西脇知事は、2020年2月11日の「KYOTO地球環境の殿堂 表彰式」の挨拶の中で「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロ」を目指すことを宣言。

日本も、そして京都も、「脱炭素」に向けて大きく動くことが確実

企業の脱炭素化への動き



7



RE100ウェブサイトより

事業で使用する電力の再生可能エネルギー100%化にコミットする協働イニシアチブである「RE100」には、GM、マイクロソフト、BMWなどの世界的企業が、日本からも、リコー、イオン、パナソニック等が参加。



J-CLPウェブサイトより

中小企業や自治体、団体向けの「RE Action」が立ち上がり、55の企業・団体が参加。京都市もアンバサダーとして参加を呼びかけ。

例えばトヨタ自動車も、バリューチェーン連携によって、ライフサイクル全体でのCO2排出ゼロを目指すことを宣言。

今後、再エネ100%・CO2ゼロが、取引の条件になる可能性が高い
この流れに乗り遅れない地域づくり・企業支援が必須

公共施設の脱炭素化への動き



8

環境省

2025年までに本庁舎等の、2030年までに出先機関も含めて、調達電力を再エネ100%とすることを発表。

防衛大臣

2019年12月23日の記者会見で、「なるべく地元の電力会社から調達をする、更に、可能な限り再生可能エネルギーの比率の高い電力を調達することを、全ての施設においてできるように事務方に指示をした」ことを表明。

府内市町

福知山市は、2020年4月より、小中学校、本庁舎、支所等の電力を再エネ由来のCO2ゼロ電力で供給開始。
亀岡市も、かめおかふるさとエナジーを立ち上げて、小中学校等への再エネによる電力供給を実施。
(与謝野町・宮津市も「ゼロ・カーボンシティ」に登録しており、同様の動きが加速すると考えられる)

公共施設での再エネ電力使用は、今後、間違いなく必須に



「持続可能な開発」の歴史



9

- 1962年 『沈黙の春』(レイチエル・カーソン)
- 1972年 『成長の限界』(ローマクラブ)
- 1972年 国連人間環境会議(スウェーデン ストックホルム)
「人間環境宣言」を採択
- 1987年 国連「環境と開発に関する世界委員会」
(通称「ブルントラント」委員会)
持続可能な開発(Sustainable Development)を定義
「現在の世代の欲求を満たしつつ、
将来の世代の欲求を満たす開発」



「持続可能な開発」の歴史



10

- 1992年 国連環境開発会議(ブラジル リオデジャネイロ)
「リオ宣言」を採択(26の原則を示す)
 - 共通だが差異ある責任(第7原則)
 - 予防原則(第15原則)
 - 汚染者負担の原則(第16原則)
- 気候変動枠組条約・生物多様性条約署名開始
「アジェンダ21」を採択
- 2000年 国連ミレニアムサミット(アメリカ合衆国 ニューヨーク)
「国連ミレニアム宣言」→MDGsとしてとりまとめ
- 2015年 国連持続可能な開発サミット
目標としてSDGsを盛り込んだ「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択



SDGs(持続可能な開発目標)



11



実行計画区域施策編とコベネフィット



12

○これから的地方における地球温暖化対策の在り方

＜コベネフィットの追求＞

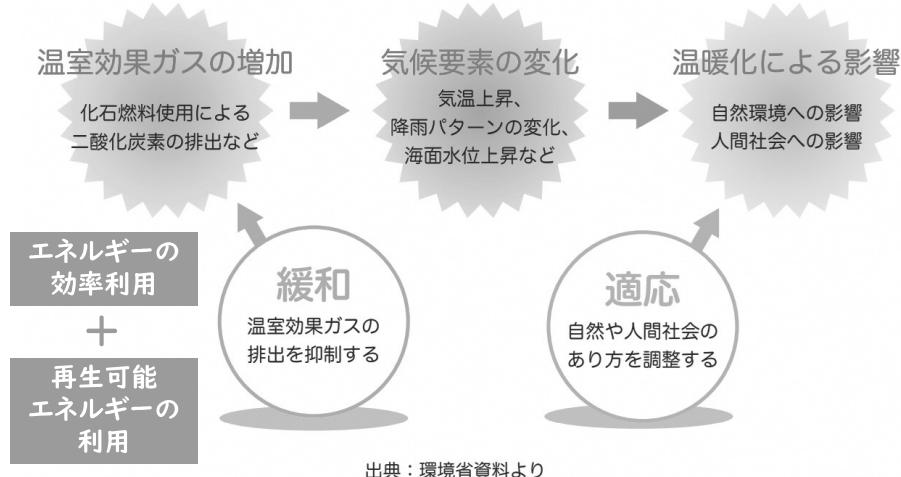
- ・ 地域における地球温暖化対策は、温室効果ガス排出の抑制を実現するだけではありません。地域活性化、人口減少、産業振興、防災、健康等の多様な課題の解決に貢献し、住民・事業者の利益となる可能性を秘めています。
- ・ 地球温暖化対策は、社会経済情勢や技術動向も踏まえて区域の目指す将来像の中に位置づけ、コベネフィット、すなわち、温室効果ガスの排出抑制等と併せて地域が追求できる経済・社会的な便益の観点を含めて検討すべきであると考えられます。
- ・ また、関連する他分野の施策も、地球温暖化対策の観点から再検討し、効果的な連携を図るべきであると考えられます。

策定マニュアルには「コベネフィット」が22回登場



気候変動の「緩和策」と「適応策」

13



SDGs+気候変動対策事例 北海道下川町

14

■北海道下川町

人口約3400人 夏は30°C以上、冬は-30°C以下になる寒暖の差が激しい地域

第1回「ジャパンSDGsアワード」で推進本部長賞を受賞



第1回「ジャパンSDGsアワード」受賞団体

SDGs推進本部長(内閣総理大臣)賞

北海道下川町

SDGs推進副本部長
(内閣官房長官)賞

SDGs推進副本部長
(外務大臣)賞

- 特定非営利活動法人しんせい
- パルシステム生活協同組合連合会
- 金沢工業大学
- サラヤ株式会社
- 住友化学株式会社

SDGsパートナーシップ賞(特別賞)

- 吉本興業株式会社
- 株式会社伊藤園
- 江東区立八名川小学校
- 国立大学法人岡山大学
- 公益財団法人ジョイセフ
- 福岡県北九州市

